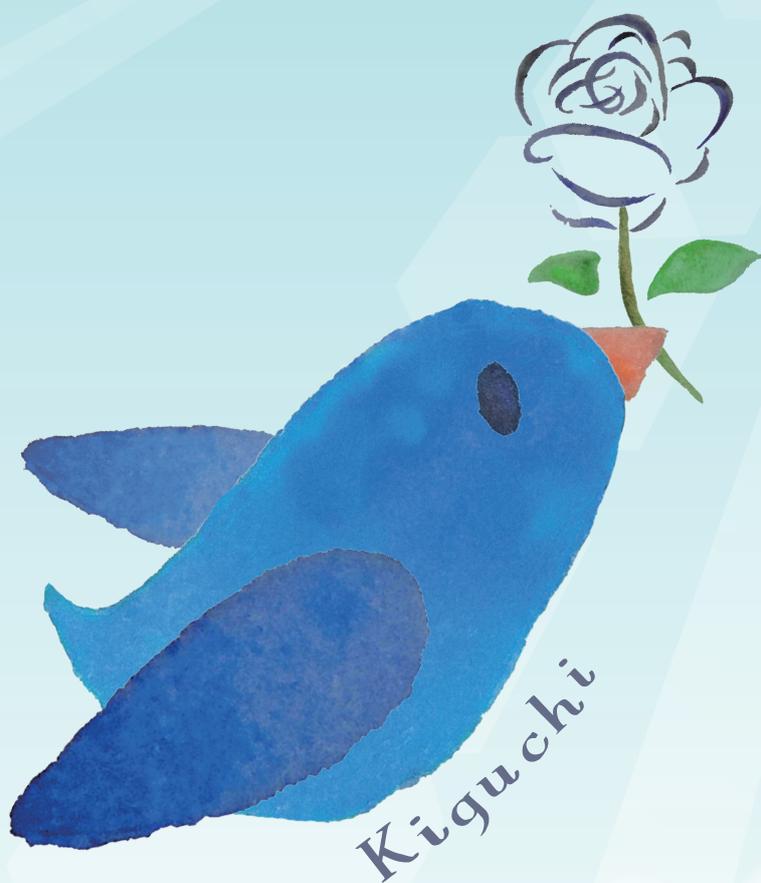


助成事業報告集

平成 29 年度助成対象事業要覧



Kiguchi Foundation
公益財団法人 **木口福祉財団**

も く じ

- **平成29年度助成事業の概要** P 2
 - 1. 助成事業の趣旨
 - 2. 助成内容
 - 3. 助成予定額
 - 4. 公募
 - 5. 助成対象の選考
 - 6. 選考結果の通知および助成金の交付
 - 7. 対象事業の完了報告

- **平成29年度助成対象事業一覧** P 5

- **選考委員** P 8 7

平成29年度助成事業の概要

1. 助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、福祉活動やボランティア活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

2. 助成内容

I 地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動やボランティア活動で、特に公的補助を受けることが困難である団体などに必要資金を助成します。

(1) 対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

(2) 対象事業

- ・事業の立ち上げにかかる活動運営費
- ・工事費
- ・備品購入費
- ・調査、研究費
- ・講習会、イベント等の企画開催費

II 被災地復興助成

被災地復興助成は、日本国内の自然災害等で甚大な被害を受けた被災地における障がい者等の生活、地域福祉の復旧、復興に取り組むボランティア活動、福祉活動を助成します。

(1) 対象団体

自然災害により甚大な被害を受けた被災地で、被災された障がい者を支援する活動に取り組む団体・グループ

(2) 対象事業

申込事業の実施に必要な費用

3. 助成予定額

年間の助成金総額	36,000,000円
地域福祉振興助成	26,000,000円
被災地復興助成	10,000,000円

4. 公募

(1) 公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBでの申請または、申込書類一式を郵送で配付しました。

(2) 公募期間

地域福祉振興助成	平成29年3月13日から4月20日まで
被災地復興助成	平成29年7月3日から8月3日まで

(3) 応募件数

地域福祉振興助成	203件
被災地復興助成	4件

5. 助成対象の選考

(1) 一次選考

すべての申込案件について、6名の選考委員が書類選考を実施しました。

地域福祉振興助成	一次選考による結果	73件
被災地復興助成	一次選考なし	

(2) 聞き取り調査の実施

地域福祉振興助成の一次選考を通過した73件について、7月から8月にかけて聞き取り調査を実施しました。

(3) 最終選考

平成29年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額

地域福祉振興助成	55件	36,040,000円
被災地復興助成	3件	3,850,000円
合計	59件	39,890,000円

6. 選考結果の通知および助成金の交付

(1) 選考結果の通知

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

(2) 助成金の交付

各団体と「助成金に関する覚書」を交わし、振込みで交付しました。

7. 対象事業の完了報告

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

平成29年度 助成対象事業一覧

地域福祉振興助成 活動運営

(宮城県)

P8 一般社団法人かもみ〜る 地域活動支援センター働希舎かもみ〜る

(神奈川県)

P9 一般社団法人ぴぐまりおん

(愛知県)

P12 特定非営利活動法人きつおんサポートネットワーク

地域福祉振興助成 工事

(福井県)

P13 特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

(京都府)

P14 特定非営利活動法人ワンハート

(愛媛県)

P15 特定非営利活動法人ふかぶか B型事業所4ふんの3

(鹿児島県)

P16 株式会社EN WATER FARMS イーエヌ水耕栽培就労継続支援B型事業所

地域福祉振興助成 備品購入

(岩手県)

P17 一般社団法人ほまれの会 ベリーズルーム

(宮城県)

P18 特定非営利活動法人せんだいアビリティネットワーク 事務局

(群馬県)

P20 特定非営利活動法人麦わら屋

(東京都)

P21 社会福祉法人チャレンジャー支援機構 パン工房ノアノア

(神奈川県)

P22 特定非営利活動法人ふかぶか カフェベーカリーふかぶか

P24 特定非営利活動法人はだのあすなる会 あすなるリサイクル作業所

(新潟県)

P25 特定非営利活動法人キッズサポートつむぎ 地域活動支援センターキッズサポートつむぎ

- (石川県)
- P26 株式会社クリエイターズ リハスファーム
- (静岡県)
- P27 特定非営利活動法人スマイルベリー
- (愛知県)
- P28 特定非営利活動法人ひなたの物語り 重症心身障がい児デイサービスセンターひなたのゆめ
- (兵庫県)
- P29 特定非営利活動法人ケアット キッチンつながり
- P30 Link
- P31 認定特定非営利活動法人子どものみらい尼崎 すこやかプラザ
- P32 特定非営利活動法人サポートステーションFlat Trunk
- P33 要約筆記ボランティアサークル「マルヨかんざき」
- (鳥取県)
- P34 特定非営利活動法人きらめき
- (岡山県)
- P35 特定非営利活動法人さくら ふくしあ就労継続支援B型事業所
- (高知県)
- P36 特定非営利活動法人あさひ会 障害福祉サービス事業所あさひ・はばたき
- (佐賀県)
- P37 特定非営利活動法人夢ありあけ
- (長崎県)
- P39 特定非営利活動法人SPICY

地域福祉振興助成 企画開催

- (千葉県)
- P41 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 千葉聴覚障害者センター
- P42 前向き闘病の会
- (東京都)
- P43 公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO ホスピタリティ・ゲストハウス
- P44 特定非営利活動法人サイレントJAPAN
- (京都府)
- P46 特定非営利活動法人そらいろプロジェクト京都
- P48 特定非営利活動法人ニュートラル
- (大阪府)
- P50 特定非営利活動法人エンパワメント・プランニング協会

(兵庫県)

- P52 一般財団法人カナウ
- P54 もとまちハートミュージアム実行委員会
- P56 社会福祉法人神戸いのちの電話
- P57 公益社団法人日本オストミー協会兵庫県支部
- P58 望海地区在宅サービスゾーン協議会
- P60 特定非営利活動法人PASネット
- P62 特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・兵庫
- P64 たじまびっくりばこ実行委員会
- P66 兵庫県喉摘障害者福祉協会 神鈴会
- P68 兵庫県特別支援学校(知的)サッカー連盟

(和歌山県)

- P70 特定非営利活動法人きぼうの会 きぼうの木

(福岡県)

- P71 テキスト訳グループ「あいフレンド」
- P73 筑後地区療育システム協議会

(宮崎県)

- P75 株式会社ブルーバニーカンパニー

(鹿児島県)

- P77 特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議

(沖縄県)

- P80 TeamきらりOKINAWA

被災地復興助成

(兵庫県)

- P82 東北関東大震災の被災者を支援する市民の集い

(熊本県)

- P83 特定非営利活動法人すまいるワーク 放課後等デイサービスさくらんぼ
- P84 くまもとCSの会

一般社団法人かもみ～る 地域活動支援センター働希舎かもみ～る

【所在地】 宮城県気仙沼市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

- 相談支援事業所「ふぁみりースペース陽だまり」
障害児・者本人と家族の相談支援と障害福祉サービス利用の計画・モニタリング等の作成などを行う。
- 地域活動支援センター「働希舎かもみ～る」
障害者の就労体験活動や創作活動、そして自分の居場所として活用してもらう。

- 地域コミュニティ事業(28年度)
被災地域住民の心のケア活動や障害者との交流事業として、カフェサロンやかもみ～るマーケット他を行っている。
☆カフェサロン活動・手芸講座18回、イギリス壁紙ワークショップ5回、ガラスアートワークショップ2回、キャンドル手作りワークショップ2回
☆かもみ～るマーケット・補陀寺deマルシェ2回開催
☆子育て支援活動・親業コミュニケーショントレーニング講習会2回、収穫祭・芋煮会1回、親子でクッキング教室1回、入園入学応援講座2回
☆心のケア活動・EFTセラピー講習会と個人セッション2回実施内容

「障害者と地域コミュニティをつなぐ拠点づくり」

実施内容

【助成額】 100万円

◎新規事業所の内装工事について

- 平成30年3月 5日 工事着工(気仙沼駅前プラザ建築終了、カギ引き渡し3月1日)
- 3月30日 床・部屋仕切り等の工事完了(木口財団助成金分として)
- 4月28日 内装工事全終了。
- 5月1・2日 新事務所へ引越し。
- 5月 8日～地域活動支援センター再開、19日 開所式お祝い会、6月1日～
就労継続支援B型開始

◎その他の事業

- ・カフェサロン活動・・・パッチワーク講座月1回(年10回)市民向け各5～6名
- 平成29年5月 イギリス壁紙WS(英国インテリアデザイン協会からの支援による)15名
- 7月 POP講座(マルシェに向けて出店者他のためのチラシ・ポスター、看板作り講座)
- 8月 親子でガラスアクセサリーWS(市民向けWS)207名
- 9月 イギリス壁紙WS(障害者支援事業所「松峰園」親子への)20名
- 12月 イギリス壁紙WS(魚町ボランティアクラブ10名)
- イギリス壁紙WS(障害者等親の会「くるみの会」親子10組20名)
- ペーパークイリングでつくるお正月飾り(市民向け、障害者親子含20名)
- 平成30年2月 イギリス壁紙WS(災害公営住宅住民向け15名)
- ガラス、アクセサリーWS(市民向け、障害者親子含15名)
- 3月 消しゴムハンコWS(市民向け)15名
- ・かもみ～るマーケット(マルシェ)
- 平成29年7月 えきまえマルシェ(気仙沼駅前住宅 来場者500 出店者30名)
- 10月 魚町入沢プチマルシェ(魚町入沢公営住宅 来場者200 出店者20名)
- 11月 ししおりマルシェ(鹿折公営住宅 来場者300 出店者25名)
- 平成30年3月 南郷マルシェ(南郷公営住宅 来場者290 出店者15名)

一般社団法人ぴぐまりおん

【所在地】 神奈川県横浜市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■小・中・高校生対象

毎週月火・放課後余暇支援

水(月1回)・JTMミッククラス

木・学習支援

土・生活スキル向上獲得のためのお買い物や調理実習(月2回)

日・造形活動(月1回)

■高校卒業後(18歳以上)の成人余暇支援

金・夕方から居場所作り及び生活スキル獲得を目指した調理活動(月1~2回)

土・夕方から居場所作り及び生活スキル獲得を目指した調理活動(月1~2回)

「発達障害、知的障害児・者のための夕方・休日余暇支援」

実施内容

【助成額】 35万円

●小・中・高校生対象

毎週月火・放課後余暇支援

水(月1回)・JTMミッククラス

木・学習支援

土(第2、第4)・生活スキル向上獲得のためのお買い物や調理実習

日(月1回)・造形活動

●学齢期を終えた成人(青年)の余暇支援

金・仕事を終えて夕方からの居場所作りと生活スキル獲得を目指した調理実習(自分達で栄養等を考慮しながらメニューを考え調理する)

土・休日の夕方からの居場所作り及び生活スキル獲得を目指した調理実習(自分達で栄養等を考慮しながらメニューを考え調理する)

日・造形活動



得られた効果

■本来は発達障害児のためのプログラムですが、日曜の造形クラスでは小学校低学年の保護者の方々が、子供達の活動を見守りながら時々お手伝いして下さっています。待っている間に保護者同士の交流が深まり、情報交換する場にもなりました。

■従来、福祉事業所に通っている障害者の方々は自宅と事業所の往復が主でそれ以外の場所で他の事業所に通う人との交流を持つ場というのは殆どないのが現状です。ぴぐまりおんでは、今年度4月より月1回第3金曜日に社会人クラスを作り、中学生の頃からぴぐまりおんに通う青年5人が参加しました。社会人となってからも中学生時代から通い慣れたぴぐまりおんの部屋でリラックスしたり、調理プログラムを通し、生活スキルの向上と共にそれぞれ違う事業所に通い頑張っている姿を知ることでお互いの刺激や励みになったと保護者の方にも大変喜ばれました。

問題点

特になし

次の課題

今年度より新しく社会人クラスを月1回スタートさせましたが、他に社会人を対象にした運動プログラムや趣味(習字や陶芸など)のプログラムのニーズがあり、今後はその様なクラスを増やしていきたいと考えています。しかしながら公的資金による運営ではないため運営資金の調達が厳しいのが現状です。

今後も助成団体を探すと共に、資金を抑えるために、公的な施設を利用したり、引き続き支援して下さる方々と共同でプログラムを作っていくことも検討していきたいです。



・子育て支援活動 8月のWS（親子ペアは7組）

平成29年10月 かもみ〜るファーム収穫祭（親子10組 障害者親子5組）ボランティア5名
第3回 呼吸ケアに関わる多職種交流会 平成29年3月25日（土） 15:45～16:30
講師：独立行政法人国立病院機構八雲病院 小児科診療部長 石川 悠加 先生
参加者：看護師、理学療法士、ヘルパー、当事者、家族等 14名
内容：呼吸器装着患者に対する医療的ケア、日常生活支援に関する情報共有

得られた効果

- ☆カフェ・サロン活動、子育て支援活動、マルシェ等などで、常に障害児・者本人と家族が市民の方たちと交流しながら参加していた。いっしょに参加することだけでも意義ある時間と思っていたが、同じグループ（テーブル）になった市民の方々が自然に配慮してくれたり、マルシェでもここにこと会計を待ってくれたりと無理なく対応してくれた。これからの活動に多くの団体、個人とのつながりが就労支援へ広がりよりよい成果を生むだろう。
- ☆就労継続支援B型事業所の内装工事中も、多くの市民や福祉事業所関係者、公的機関、保護者の方々から反応いただき、地元新聞でも掲載してもらった。（関心度が高かったようだ）

問題点

特になし

次の課題

- ☆カフェ、サロン、マルシェ活動で市民の方々と交流できたが（成果もあるが）、まだ理解を深めて、就労活動へとつながるにはほど遠い。難しいことはよくわかっているが、地域の方たちとより交流をもち、理解を得て本人（障害者）の個性をわかってもらって就労へとつなげていきたい。



特定非営利活動法人きつおんサポートネットワーク

<https://www.kituon.or.jp>

【所在地】 愛知県名古屋市緑区

【対象者】 吃音者(きつおんしゃ)

【日常の活動】

- ①きつおん子育てカフェ:吃音のある子どもの養育者の交流会
- ②きつおん子育てサポーター養成講座:養育者の勉強会
- ③きつおん臨床セミナー:支援者の研修会
- ④情報誌の発行:本人、養育者、支援者がそれぞれの立場から吃音に対する考えや経験を寄稿する(隔月発行)
- ⑤将来、支援者となる学生を対象とした言語聴覚士養成課程との交流会(名古屋医専、日本聴能言語福祉学院など)
- ⑥療育機関へ講師を派遣し、養育者を対象とした相談会を開催(三河青い鳥医療療育センターなど)

「平日夜間および日曜日に対応可能な吃音相談室の開設資金」

実施内容

【助成額】29万円

☆吃音のある子どもについては、保護者への相談対応及び子ども自身への評価(検査)、訓練等を実施した。

☆吃音のある人(成人)については、本人への相談対応及び評価(検査)、訓練等を実施した。

☆また、求めに応じて園や学校などに対して吃音についての理解を求めるための文章を作成した。

☆平成29年7月1日より営業を開始した。

☆1コマ1時間として、以下のスケジュールで週23コマの枠にて対応した。

平日 17:30~18:30、18:30~19:30、19:30~20:30

土曜 17:30~18:30、18:30~19:30、19:30~20:30

日曜 13:30~14:30、14:30~15:30、15:30~16:30、16:30~17:30、17:30~18:30

得られた効果

☆当該助成事業における「平日夜間・日曜に安価で吃音に関する支援に対応する」という目的を達成する過程で、近隣の医療機関との連携を促進することができた。

☆特に小児において、利用者負担金が生じることにに対して違和感を訴えられた場合、その利用者の近隣医療機関に連絡を取り受け入れを求めるというケースが少なくなった。

☆マンパワーの関係から、受け入れを困難である旨の回答を受けることも少なくなかったが、吃音臨床について経験のある言語聴覚士からの基本的な情報提供や初期評価(検査)があることで受け入れ実績がない場合でも、前向きに検討してもらえたケースがあった。

問題点

☆稼働率を50%(週10名程度)としていたが、実際には最も多かった時期でも20%程度(3~4名)にとどまった。特に小児の利用が少なかった。

☆専従者のスケジュールの都合から、日曜日に稼働できない週があった(6回)

次の課題

☆利用者数が計画時点での見込みを大幅に下回ったことが大きな反省だと捉えている。

その理由として、①小児については「無料が当たり前」という認識があったこと。②近隣の類似の取り組み(愛知県内に、自費及び児童発達支援/放課後等デイサービスで吃音に専門的に対応している団体が少なくとも2カ所ある)との連携が不十分でおたがいの利用者の紹介がはじまったのが年明けの平成30年1月以降からになったことが挙げられる。

☆利用者一人ひとりの症状や個性に応じて、やはり支援方法にも「合う・合わない」があり、また利用者の確保の観点からも、紹介はもっと積極的に行うべきであった。

特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

<https://www.kumakko-club.com>

【所在地】 福井県福井市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

生活介護事業・放課後等デイサービス事業・日中一時支援事業

「障がい者多機能通所施設の改修工事」

実施内容

【助成額】 73万円

一階トイレ改修工事

- ・トイレ前の踊り場に男子用トイレを増設
- ・洋式便座を後方に移動
- ・配管の増改設
- ・トイレ前に増設した男子トイレと洋式トイレを結ぶ床のフラット化及び貼り替え
- ・男子トイレ背面に防水壁施工 等

得られた効果

一階トイレは親の会を交えた会議の際に保護者も利用する。今回の改修を目にした方々は一様に使いやすくなったことをよかったと言ってくれる。

問題点

特になし

次の課題

今回は既存のトイレ前に増設して男子用トイレを設けたが、将来的にはやはり男女別々に設ける必要がある。



特定非営利活動法人ワンハート

<http://npooneheart.com>

【所在地】 京都府京都市

【対象者】 精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- 就労継続支援B型事業
 - 認知症カフェ(居場所作り)
認知症の方や、障がい者の方への居場所作りを一体的に行い、余暇活動を行います
 - ・月2回(第2、第4土曜日)
 - ・ゴールデンウィーク 2日~3日
 - ・シルバーウィーク 2日~3日
- また、ご家族の方の介護・支援負担の軽減を図り、ご家族の方への相談支援も必要に応じて行います。

「就労支援B型事業所利用者増加による拡張工事と作業の充実化」

実施内容

【助成額】 29万円

換気扇工事

事業所内で行っていた調理の時に発生する煙と臭いがこもるといった事が頻繁に発生していましたが、事業所内天井に2台換気扇を設置し、問題解決しました。

看板工事

事業所入り口上部に亚克力製の看板を設置しました。

パソコン3台の購入

大学、ITサポートセンターからのデータ入力作業やパソコンスキルアップ作業、資料作成、ホームページ作、FacebookのUP作業を利用者にさせて頂いています。

机・椅子

機の確保によって下請け作業場が広がり、1日に数種類の作業を同時に行えるようになりました。

得られた効果

仕事が倍以上に増量し、色々な仕事を通して利用者さんに自分に合った仕事を見つけ出して頂けるようになってきました。

今では「出来ない」と諦めていた仕事を「出来るようになりたい」と挑戦されています。

また仕事の種類も増えた事によって「今までは出来なかったが、この仕事ならできる」と各自の可能性や労働意欲も高まりました。・現在でも吃音症例の受け入れを実施していない医療機関が多いという認識が一般的であるが、今回のような「後押し」があれば対応可能となる場合もあること発見できた。

問題点

特になし



次の課題

仕事量も増えたので今後は極力利用者さんが希望する実習先を探し就労につなげていく事と屋外作業(例:農園や公共場所の清掃など)を取り入れていく事です。

特定非営利活動法人ふかふか B型事業所4ぶんの3

【所在地】 愛媛県四国中央市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所、一般相談支援事業、リサイクル事業

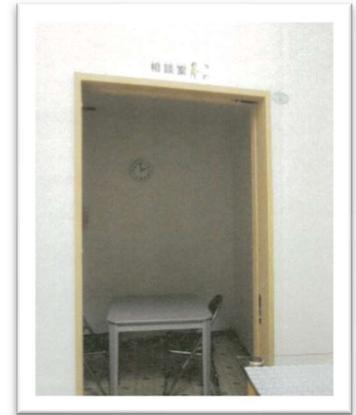
「障がいがあっても自分らしく地域で生きるための居場所づくり」

実施内容

【助成額】 100万円

「B型事業所 4ぶんの3」の立ち上げの為に改修工事

- ・1階和式トイレを洋式トイレに改修、更に洋式トイレを1つ増設、換気扇取り付け
- ・相談室として使えるように間仕切り、天井、窓のクロス貼り
- ・誘導灯、消火器の設置 等



得られた効果

事業所が商店街内にある為、商店街を通る人が関心を持ってくれることで障がいのある人たちが地域で生きていく事への理解が深まると思われる。

さびれた商店街の活性化につながると思われる

問題点

特になし

次の課題

古い建物のため、年々傷みは進むので補修等に費用がかかってくる。

まだまだ、シャッターの閉まっているところが多いので、それらが有効に使われることを考えていかなければいけないと思う。



<http://www.enwaterfarms.com>

【所在地】 鹿児島県鹿児島市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

【就労継続支援B型事業所の運営】

- ・農業（水耕栽培にて小松菜の栽培、収穫、出荷）
- ・イベント等における接客販売訓練
- ・生活支援（清掃、整理整頓等）
- ・コミュニケーション能力向上支援

【余暇支援】 カラオケやボウリングなどのレジャー体験などの支援

【その他】

NPO 法人、児童養護施設、小学校との連携、子ども、ひきこもりニート、高齢者、農業体験、自然体験の実施

「障がい者の自立支援の場としてのアクティブカフェの開設」

実施内容

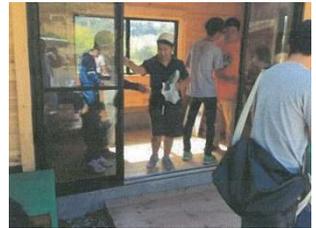
【助成額】 100万円

アクティブカフェとして、ログハウスの整備を行った。

職員、ボランティア、利用者（障がい者）と共に自分達で建築作業を行った。

ログハウスを建てるところからみんなで共同作業をし、建物を建てるという作業を体験することで、農業以外の仕事の苦勞を知ることが出来、自分達で自ら建てることで、アクティブカフェに対する思いも強くなり、素晴らしい体験となった。

整備したアクティブカフェでは、利用者（障がい者）の就労支援の一環として自分達が日常作業で育てた小松菜をはじめとした野菜や加工品の接客販売訓練を行った。



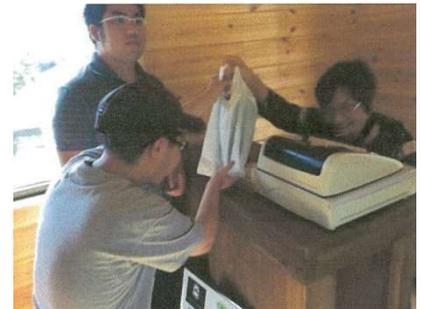
得られた効果

今回のアクティブカフェの整備において、就労支援を利用している障がい者などに農業での、生産・出荷という工程だけでなく、接客販売という業務を訓練に加えることで、自分達が作った野菜を直接、消費者に届けることの喜びを知ることができ、日頃の生産作業にも意欲がわき、とても大きな価値がありました。

アクティブカフェを整備し、本来の目的とは別に得られた波及効果としては、野菜の販売所が出来たことで、地域の方々が寄りやすくなり、障がいの有無を超えたつながりや場所があることで、リピートして購入して下さるお客様が増えたり、障がいに対する理解にもつながった。又、社会的価値については健常者と障がい者のわけへだてなく集える場所として、さらには農業と福祉についての理解についての発信場所としていけたら嬉しいと思っています。

問題点

天候に左右され、建設の期間が少しかかってしまったこと。



次の課題

現在は自社製品の農産物の販売を主として活動しておりますが、今後は地域の方が生産した野菜の販売、又加工品においては、自社の小松菜を使ったグリーンスムージの販売等、地域の農産物の直売所でありながら、自社の新商品の開発、発信拠点としてカフェを目指していきたいです。そうすることで、地域活性化と利用者の工賃向上を同時に目標達成していきたいです。

一般社団法人ほまれの会 ベリーズルーム

【所在地】 岩手県一関市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

- 相談支援事業、計画相談(児・者)
 - 共同生活援助事業
 - 他国籍、他県からのボランティアの受け入れ
 - ひきこもり者への活動の場の提供
- ※6月1日より就労継続B型支援事業認可予定

「公用車の購入（軽自動車1台、8人乗り大型ワゴン車1台）」

実施内容

【助成額】 71万円

EK ワゴン 1台…個別的な通院、買い物、その他事務手続き支援(役場、銀行等)
エステマ 1台…大人数での買い物、ドライブ、就労B利用者送迎。

得られた効果

就労の中の作業で、ガーデン施行の仕事が入り、施設の外での作業が出来、利用者さんの気分転換となった。

問題点

特になし

次の課題

特になし



特定非営利活動法人せんだいアビリティネットワーク事務局

<http://www.san.or.jp/>

【所在地】 宮城県仙台市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者、高齢者、その他

【日常の活動】

■障害者、バーチャル工房事業

障害のある方への就労するために情報機器やインターネットの活用した訓練等の支援を行い、在宅の障害者の就労の促進を図りました。

-具体的な事業内容-

・ホームページやデジタルコンテンツ制作をテーマにした講座の実施 ・インストラクターを目指す方を対象にした講座の実施 ・依頼を受ける為の拠点運営

■重度障害者コミュニケーション支援センター事業

意思の表出に高い困難性を有する ALS(筋萎縮性側索硬化症)等の重度の障害をお持ちの方が、意思伝達装置等を活用してコミュニケーションが取り続けられるよう継続的に支援する事業です。

-具体的な事業内容-

・訪問、電話、メールによる支援 ・スイッチの加工や製作 ・支援者に対するサポート

■東北福祉大学特別支援教育研究室委託 PC 教室

特別支援教育を要する生徒を対象としたパソコンスクールに取り組んでいます。

■収入獲得支援事業 (IT 支援関連事業)

障害のある方の在宅就労支援事業の実践場所として「カッティングシート加工」「キーガード製作」「テープ起こし」「印刷関連」に受注に取り組んでいます。

■ALS等重度障害者の意思伝達支援(仙台市外)

補装具費制度を通じた「意思伝達装置」等の販売事業を財源に、意思伝達装置の利用が継続的にできるようなするための取り組みを行っています。

■福祉支援事業

障害者作品商品化・販売事業に取り組んでいます。

■「伝の心」カスタマーセンター業務

パシフィックサプライ株式会社より委託を受け、意思伝達装置伝の心の電話サポートを行っています。

「重度障害者のための音声収録機器の整備」

実施内容

【助成額】 12万円

下記の物品を購入致しました。

- ・リニアPCMレコーダー SONY PCM-D100 1台
気管切開前の患者の声を記録するための装置
- ・コンデンサーマイクロホン SONY ECM-MS957 1台
「リニアPCMレコーダー SONY PCM-D100」に接続して使用するマイク
- ・モニターヘッドホン SONY MDR-CD900ST 1台
マイクを通して拾われる音声を確認する為のヘッドホン
- ・マイクスタンド Roland ST-100mB 1台
マイクを固定する為のスタンド



※「リニアPCMレコーダー SONY PCM-D100」は、東京都立神経病院で実施されている「マイボイス外来」で使用されている機器の後継機です。

得られた効果

集録機器が納品されてから年度末までに気管切開前の時期での音声収録が実現した患者は1名でした。

収録した音声は、重度障害者用意思伝達装置(以下、意思伝達装置)に組み込むことを予定しておりますが、上肢の機能低下の進行が緩やかであることから、意思伝達装置以外への収録音声の応用が出来ました。

一つは、VOCA(Voice Output Communication Aids:音声出力会話補助装置)への音声の組み込みです。格子状に配列された機器上のボタンを押すことで、本人の挨拶等の声が出力されるように組み込みました。

二つ目は、本 NPO 法人独自の機器への組み込みです。手に持ったスイッチを一定時間内に押す回数により、出力される音声を切り替えるものです。

具体的には、

2回押し「おはようございます」 3回押し「こんにちは」 4回押し「おやすみ」

5回押し「ありがとう」 6回押し「どういたしまして」と発声します。

これは、外出時など意思伝達装置を持ち歩けない場合等に携帯しやすいコンパクトな機器です。これまで、収録した音声は、意思伝達装置への組み込みが一般的でしたが、より高音質で声を残すことが出来るようになり、活用の場面が広がったのも、今回の助成で機器が整備できた波及効果と考えます。

問題点

特になし

次の課題

今回の助成を経て、気管を切開する前に患者さんの声をより高音質で残していくことが出来るようになりました。その一方で、より多くの言葉を残しておきたいという要望が出てくるだろうと予想しております。声を残した後に、意思伝達装置に組み込む作業が必要となりますが、収録した声を意思伝達装置に組み込むための作業は、

1. 収録した声の音声データを見ながら、単語一つずつの切り出し作業
2. 切り出したファイルに名前を付けて保存していく
3. 組み込む意思伝達装置側でスクリーンキーボード作り
4. 作成したスクリーンキーボードへの音声データの組み込み作業

の行程が必要になります。

これまでの経験から、1時間程度の時間で約800語句の言葉を収録することが出来ます。約800語句を1つずつ上記の行程で切り出して保存していくと、1日に2人必要となりました。

実際に意思伝達装置に組み込んで有効活用できる言葉の数は、100前後と言われていますが、今後、声を出せなくなるという状況を前にすると少しでも多くの言葉を残しておきたいという要望が出て参ります。

今後、見込まれる課題として、収録した声を意思伝達装置等に組み込んでいく作業と収録していく言葉の数のバランスを取っていくことの側面と予想しています。

将来、声を残しておきたいという要望が集中する場合、平成29年度12月に開所した就労継続支援B型事業所に音声データの切り出し作業や保存作業をお願いし、障害のある方の就労支援につなげて解決していきたいと考えております。

特定非営利活動法人麦わら屋

【所在地】 群馬県前橋市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

- 障害者総合支援法に基づく就労移行支援、就労継続支援B型
- 障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業のうち、日中一時支援事業
- 障害者総合支援法に基づく、特定相談支援事業
- 味噌の製造、販売
- メダカの繁殖、販売
- 請負作業

「新規事業として、豚肉の味噌漬け製造にかかる真空包装機の導入」

実施内容

【助成額】 64万円

今回申請する内容は、豚肉の味噌漬けの新規事業の立ち上げに係る真空包装機の導入です。

味噌漬けを真空包装し、冷凍商品として産地直送のギフト商品を開発しようと考えています。

開所当初から味噌の製造販売を行っており、産地直送の商品として群馬県ふるさと認証と前橋市推奨の赤城の恵みブランドの認証を受けています。この味噌を使った豚の味噌漬けを作り、障害を持った事業所も一緒に地元の活性化を担えたらと考えています。

群馬県は豚の屠畜数が全国1位です。群馬県前橋市は豚肉の街として売り出しています。この豚肉の味噌漬けは、この事業所を立ち上げる時から構想にありました。

理事長である私は、この法人を立ち上げる前、別の法人のB型事業所でハム・ソーセージを作り、全国展開している百貨店や地元の百貨店と取引をしていました。

肉に関する知識、また百貨店への売り込みのノウハウは有しています。販売を開始するにあたっては、スーパー等での店頭売りではなく、産地直送のブランド商品としての地位を確立していこうと思います。

また、塩麴の商品化も進めています。豚の味噌漬けの他、豚の塩麴漬けの製造も視野に入れていきます。ギフト商品として豚の味噌漬けと豚の塩麴漬けのセットを売り出そうと考えています。

得られた効果

助成いただいて導入した真空包装機は、従来の物に比べると、一度に真空出来るパック数も多く（今までは2枚であったのが6枚）、利用者さんでも簡単に使うことができる機械になっています。作業性の向上と利用者さんのスキルアップにも繋がり、とても重宝しています。

問題点

特になし

次の課題

今回の真空包装機の導入により、利用者さんも作業しやすくなりましたが、作業効率も高くなり、1日に生産できる量も増えました。現状の製造数で対応していた販売出荷数をもっと増やしていくという課題が見えてきました。

事業計画にも記載いたしましたが、今後営業活動に力を入れ、製造数の増加と売上げアップに繋げていきたいです。



社会福祉法人チャレンジャー支援機構 パン工房ノアノア

<http://www.noanoapan.com/>

【所在地】 東京都小金井市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

「パン工房ノアノア」に通う利用者はパンや焼き菓子の製造販売、それらに関わる材料の下拵えと、販売に付随する事務作業を行っています。材料下拵えを大幅に作業工程に取り入れることにより、利用者の確実な作業の拡がりを得て、原価を抑えながらもオリジナリティある商品を製造販売しています。その製造方法は、“非効率へのチャレンジ”と表現ができます。一般的には完成された具材を仕入れ組み合わせ、手間をかけずに大量生産する方法があります。しかし「パン工房ノアノア」では、パン生地から多種多様なその具に至るまで手作りで生産を重ねています。手作りは一見すると非効率で、今の時代に逆行するやり方ですが、具材の多くを内製することで製造原価が抑えられ、工賃を確保することができます。パンに合うよう味付けした具が愛され、小金井とその周辺9市区の地域ではオンリーワンの味として、商品をお届けしています。

「パン工房ノアノア利用者工賃向上のための設備整備」

実施内容

【助成額】 100万円

当方では、障害のある方の就労支援を目的として、パン製造販売を行っております。

本事業では、パン製造作業に使用するパン生地ミキサーを、障害のある方が働く工房内に導入しました。

【実施時期】

平成29年11月17日 設備発注（製造業者による設備の製造開始）

平成30年2月9日 設備設置

平成30年2月15日 費用支払

得られた効果

お陰様で、障害の方が働く工房では、より多くの製品を製造できるようになりました。今まで以上の地域の方にパン商品を食べただけできるようになっています。障害のある方の製品が、社会の様々な場面で用いられることで、障害への差別意識の解消や、製品品質への誤解がなくなってゆく（啓蒙商品となる）ことを期待しています。



問題点

特になし

次の課題

生産設備を増強したことによる業務拡大に伴って、職員数不足が見込まれています。昨今の求人倍率の上昇でも見られますが、福祉事業に就く就労希望者は多くはなく、人材確保が今後の課題となります。生産設備の増強により、業務の裾野は利用者に拡がり生産量の向上につながりましたが、全体を段取りする職員スタッフは必須となりますから、次のステップとして対策を検討しています。

特定非営利活動法人ぷかぷか カフェベーカーぷかぷか

<http://pukapuka-pan.xsrv.jp>

【所在地】 神奈川県横浜市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型事業 ■演劇ワークショップ

「陶芸窯の設置」

実施内容

【助成額】 80万円

ぷかぷかで働いている障がいのある人たちによる陶芸作品作り。

お地蔵さん、花瓶、一輪挿し、コーヒーカップ、カップソーサー、お皿、豆皿、鉢、箸置き、アクセサリーなど。みなさん陶芸をやるのは初めてなので、現在はまだ基本的な技術の習得段階。それでもお地蔵さん、花瓶、豆皿などは味のある作品ができあがり、店先に並べておくと、購入したいというお客さんがかなり現れた。これからは商品開発にもっと力を入れ、お客さんが自分の手元に置いておきたいと思うようなものを商品として開発してゆきたい。女性目線、主婦目線での商品開発。企業との関係もできているので、会社の出入り口に置いても恥ずかしくないようなオブジェのような陶芸作品も考えていきたい。

今年2月からは月一回程度だが、地域の人たちを対象にした陶芸教室も始めた。地域の人たちが陶芸を楽しむだけでなく、障がいのある人たちとも陶芸を通してお互い知り合う機会にしている。障がいのある人たちは、普通の人たちができないような味のある作品を作るので、障がいのある人たちにあらためて出会い直す場にもなっている。あれができないこれができない、と思っていた障がいのある人たちが、味のある作品を次々に作り出し、ちょっとびっくりする人もいる。見る人の心をなごませるお地蔵さん。花瓶を作るような人は、やっぱり地域にいた方がいいですね、という話も出てきたりする。

ぷかぷかは「障がいのある人たちとは一緒に生きていった方がいい」というメッセージを日々発信し、様々な形でその理念を実現しているのだが、陶芸作品の販売、陶芸教室もそのひとつになりつつある。

得られた効果

ただ陶器を作るだけでは広がりがないので、陶芸活動に新しい価値を見いだすようにしている。味のある作品が多いので、作品の見せ方、演出に工夫を凝らし、障がいのある人と地域の人たちとの新しい出会いの機会を提供している。作品がただ作品で終わらず、人と人との新しい出会いを作りだしている。特に障がいのある人たちとの今までにない出会いは、相模原障害者殺傷事件等を考えると、その社会的な意味は大きい。地域の人たちと一緒に陶芸教室も、ただ焼き物作りを楽しむだけでなく、障がいのある人たちと一緒に楽しむことで、お互いの出会いの場になっている。いつしょに焼き物作りをすることでお互い知り合い、作品ができあがると、そこにはまた新しい出会いがある。素晴らしい作品ができるとホームページ上で紹介するので、作品に触れる人が更に増える。近々ネット販売もできる仕組みを作る予定。かわいい豆皿は女性に人気なので、宣伝には力を入れたい。かわいい豆皿を通して、障がいのある人たちの存在、活動が伝われば、今までにないメッセージの発信回路ができる。

問題点

特になし

次の課題

できあがった作品の販路がまだまだ確立できていないので、今後は販路の拡大を考えていきたい。それは障がいのある人たちと出会うを増やすことにつながる。この秋を目標にホームページを作り直すので、その時はネット販売のページもきちんと作り込む予定。今までぶかぶか代表の高崎が一人でやってきたのだが、今回の事業をきっかけにプロの陶芸作家が作品の制作に時々関わってくれることになり、作品のレベルアップが期待できる。

特定非営利活動法人はだのあすなる会 あすなるリサイクル作業所

【所在地】 神奈川県秦野市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■介護給付費等による就労継続支援 B 型

「利用者送迎軽自動車の購入」

実施内容

【助成額】 96万円

今回、送迎サービス用の車の購入をさせていただきました。

利用者の方の中には、雨天時になると、傘をさして出かけるのがいやだ、体調が崩れるなどの理由により、欠席者が多く、また作業中に体調を崩し、送り届ける等送迎には、職員の私用車を利用しており、万が一の事故の対応を考えると毎回不安な状況でした。

このたび、送迎車両を購入したことにより、先述した不安要素が無くなり、利用者の皆さんの出席率も高くなり、また職員も私用車ではないので管理者としても安心して送り出せるようになりました。送迎は、月曜から金曜日毎日実施しています。

得られた効果

当初は、車の購入により、雨天時や体調不良時による送迎サービス事業を実施するという計画で、利用者の皆様からは喜ばれているところですが、送迎サービスを始めることにより、利用者の方々の出席率が高くなったこと、また安心して作業に従事することができるようになりました。万が一に体調不良を起こしても送迎してもらえるとという安心感がよい効果をもたらしているのではないかと感じているところです。

また、送迎の短い時間ですが、運転手(職員)との会話の中で、職場以外の情報を得るなど、一層の利用者さんとのコミュニケーションが図れるなど施設運営に役立っています。

さらに、利用者の申し込みに当たっても、送迎サービスがあるということにより、身体的に障害をお持ちの方からも問い合わせが来るようになりました。

問題点

特になし

次の課題

今回、送迎サービスを始めさせていただきましたが、現在、1日の利用者平均は3~4名であり、時間調整をしながら2往復するときも時々あります。今後、利用者の送迎の希望者が増えた場合、7~8人乗りの車の購入を検討する時期もくるのではないかと感じているところです。



特定非営利活動法人キッズサポートつむぎ

地域活動支援センターキッズサポートつむぎ

【所在地】 新潟県長岡市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

地域活動支援センターとして発達障がい等の診断を受けた児童・生徒を、放課後や長期休み時に預かり、当施設において学習支援やレクリエーションの提供を行い、地域内に当児童・生徒の「居場所」を提供する。また、子どもをあずけている間、保護者の就労支援・育児疲れの解消などを目的としている。保護者への相談支援も随時行っている。

「障がい児預かり施設における冬期間の除雪確保（除雪機購入）」

実施内容

【助成額】 43万円

障がい児預かり施設における冬期間の除雪確保（除雪機購入）新潟県内でも有数な豪雪地帯である長岡市栃尾地域において、障がい児預かり事業を実施する施設維持に関して、家庭用ハンディ除雪機を1台購入し、週3回の事業実施日に除雪作業を行った。除雪作業は原則、施設スタッフとボランティア有志が交代で行い、事業実施日に道路から施設までのアプローチ、駐車場の確保をした。また、本年度は例年になく大雪だったため、ほぼ毎日施設維持の為除雪作業を行った。除雪した雪は施設内に排雪（積み上げ）し、その雪を活用してスタッフと子ども達が安全に遊べる雪山を作った。預かり事業実施日において晴天日にこの雪山で野外活動をおこなった。

得られた効果

冬期間の除雪作業を安全かつ確実に行い、常に道路から玄関までのアプローチを確保することにより、使用者家族や地域住民等から、当施設が常に管理がしっかりしていると信用につながったと思われる。

問題点

特になし

次の課題



今年度、例年になく大雪だったため、除雪後の排雪場所が足りず、敷地内にたまってしまい、一時通路の確保のみになってしまった。最終的には企業ボランティアの形で業者から無償で別の場所へトラックで排雪を行なった。例年通りの雪であれば、今回購入した除雪機で間に合うが、今年のような大雪の場合、間に合わなくなることが予想される。



株式会社クリエイターズ リハスファーム

<http://creators.me/>

【所在地】 石川県金沢市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業ならびに就労継続支援B型事業

■就労継続支援A型事業…デザイン・清掃・飲食事業を展開

■就労継続支援B型事業…リハスファームとして農業事業を展開。約50種類のハーブを栽培

「農福連携事業におけるハーブの農園内の農業作業場の設置」

実施内容

【助成額】 100万円

ハーブ農園「ペザン」内に障がい者約 20 人が作業できる作業場を建設。

使用状況としては日々の作業として、選別・加工・蒸留・休憩場として使用

建物名は「reve」フランス語で「夢」という意味。

様々な加工ができる場として、ハーブをより価値のある物にする場、そして私たちの夢を実現する場になるという想いを込めて設置しました。

得られた効果

利用者様の働く作業場の確保を目的に農作業場を設置しました。より良い環境設定が実施できたと共に仕事内容の幅も広がったと思っています。選別、袋詰め、蒸留などといったたくさんの仕事の創出が可能になったことで、農福連携モデルとして行政、企業、メディアなど多くの方々からも注目いただき、応援を頂きました。大きな社会的価値も生まれと感じています。

問題点

当初は年内の完成を目指していたが、大雪となる工事が延期となってしまったこと。

次の課題

今後の課題としては、より多くの利用者様、より幅広い仕事の創出を考えると作業場の増築が必要であると考え、それを踏まえた建築設定にしています。

また、ハーブ園に来られたお客様がくつろげるスペースの確保。ワークショップの場なども建設し自然と障がい者や地域の方々に触れ合える空間づくりを創出できればと考えます。



特定非営利活動法人スマイルベリー

<https://www.smileberry-npo.com>

【所在地】 静岡県浜松市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業・就労継続支援B型事業

「みんなを笑顔に！環境改善イソギク植栽プロジェクト」

実施内容

【助成額】 95万円

単棟パイプハウス一式(間口 7.2m、肩高 1.7m、長さ 17.0m)

・冬季を中心としたイソギクの栽培と育成



得られた効果

イソギクの栽培自体はいくつかの工程に分かれるため障がいの種類を問わずに誰でもかかわれる仕事となった。雨の日は基本的に農産物の加工が多かったが、苦手な障がい者でもできる様になった為、仕事の幅が増えた。初年度は行政に納品できなかったですが、次年度以降は計画的に納品できそうなので期待したいところです。近隣の高校との連携の話もでていっているので地域貢献しながら事業を継続していきたい。

問題点

行政等から計画されていた道路へのイソギクの移植が予算等の関係で次年度にずれ込んだ

次の課題

納品相手が行政ということもあり、計画通りに進まない部分もあったが、期待していきたい。関われる障がい者の数も増やしていきたい。



特定非営利活動法人ひなたの物語り

重症心身障がい児デイサービスセンターひなたのゆめ

<http://hinata2014.sakura.ne.jp>

【所在地】 愛知県半田市

【対象者】 重症心身障がい児

【日常の活動】

重症心身障がい児を対象とした児童発達支援事業及び放課後等デイサービスを2か所運営

「非常災害時等における医療器具等の電源確保事業」

実施内容

【助成額】 21万円

非常災害時に発電機を購入

当事業所は重症心身障がい児を主たる対象としており、日常的に医療的ケアが必要な子供たちが多く通所している。その為、吸入器や痰の吸引機、呼吸器などの機器の電源確保は生命維持に関わります。

非常災害時には購入した発電機を活用して医療器具などの電源確保を実施します。



得られた効果

熊本県で被災された施設の方のお話から、災害時の電源確保はとても重要だと聞いていた為、当法人としても懸念していました。実際、万が一の備えに中々コストをかけられずにいましたが、今回の助成のおかげで、ガソリンによる発電機を購入できました。

この地方には東南海地震が起こるといふ予想もある為、これで災害時も最低限の電力とともに、医療的ケアのある子どもたちにとってはライフラインとなる医療機器の電源も確保できるので安堵しています。

現在でも吃音症例の受け入れを実施していない医療機関が多いという認識が一般的であるが、今回のような「後押し」があれば対応可能となる場合もあることが発見できた。

問題点

特になし

次の課題

周囲はむかしからの住民の方が多く、高齢者が多い地域でもある為、災害時は地域の方々の助けにもなるようもう少し台数を増やす必要があると考えている。また、いざというときにしっかりと活用できるよう、日頃からメンテナンスや点検も行っていく。

特定非営利活動法人ケアット キッチンつながり

<http://caret-npo.org/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

(発達支援事) あいキッズ
(放課後デイサービス) あい・ランド、のびのびあい・ランド、3丁目あいランド、あいランドクラブ
(就労継続支援B型) キッチンつながり
(地域密着通所介護) あいの郷 (相談支援) (えがおの窓口) あかね在宅介護
(訪問介護・移動支援) あかね在宅介護
カフェ「はじめのいっぽ」の運営 認知症カフェ「ume のつぶやき」
子供食堂「kobe にこスプーンプロジェクト」 高齢者カフェ「ぼっぼクラブ」 あかね山荘の解放

「キッチンつながりの厨房機器増設」

実施内容

【助成額】 100万円

障がいのある人も無い人も一緒に子どもの支えるテーマに月に1階開催している子ども食堂は、神戸市の助成金を受けずに1年半続けています。無料でご参加の方が多く、毎回の売上は2000～5000円程度です。フードバンク関西、個人の方々のご寄付を頂いているので、毎回の食材は5000～10000円程度で、何とか維持できています。

ご寄付の食材を安全に保存するために、冷凍、冷蔵設備が完備された事は大変ありがたいです。

又、作業台やシンク、棚を取り入れた事で作業効率上がり、お弁当が作りやすくなっています。お菓子作りのキッチンエイドは力を使わずに一度に大量の生地を作る事が可能です。障がいのある人が取り組める作業が増え、積極的に作業に取り組むようになりました。お菓子の売上も伸びており、工賃向上の目標も今年度中には達成できそうです。



得られた効果

☆厨房機器が増設された事で、食材のご寄付を安全にストックでき、有効に使えるようになりました。

又、使いやすいシンクや作業台、棚、キッチンエイドは作業効率のアップにつながっており、「キッチンつながり」のお弁当、お菓子の売上も伸びております。子ども食堂の参加者は70人を超える事もあり、今後も子どもの居場所として地域の方々のお力も借りながら続けていきたい。

☆子ども達やメンバー、職員を共にフードロスについて考える機会を持てた。食品メーカーや小売店で発生しているフードロスだけではなく、家庭においても、大量のフードロスが出ている現状を認識するきっかけとなった。

問題点

特になし

次の課題



子ども食堂で食事を提供する中で、ある程度社会保障が充実する現代、飢えて死ぬ子ども達は少ないと感じる。でも、子どもの貧困は多い。貧困とは経済的な貧困だけでなく、人と人との関係の貧困、経験の貧困など多様である。親の影響を直接受ける子ども達におそいかかる貧困の連鎖は、まさに経済的な貧困以外の割合が多い。

子どもがいろいろな大人に出会い、成長して行く場所が、小学校区に1つ程度あれば、子どもの育ちを地域で支えていけると感じる。

Link

<http://link-ai.jp/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

セルフヘルプ活動

- ・お喋り会 ・個別カウンセリング ・メール相談 ・情報発信 ・体験談書籍化・販売
- ・講演活動 ・聴こえマークキーホルダー販売 ・補聴アプリ「EasyHearingAid」管理
- ・調査内容の書籍化

「聴覚障がい者向け AED 講習の開発・開催のための備品購入」

実施内容

【助成額】 25万円

備品の購入

- ・AEDトレーナー①1台 日本光電 TRN-2150
- ・AEDトレーナー②1台 フィリップス AEDトレーナーHS1
- ・HIS 小児用カートリッジ1台 フィリップス AEDトレーナーHS1小児用カートリッジ
- ・訓練用マネキン2個 レールダールトルファミリー ・キャリーケース1台 スーツケース エムブイプラス 83L 3.3kg
- ・ブルーシート2個 ブルーシート#3000 3.6m×5.4m 約12畳
- ・振り子メトロノーム1個 心臓マッサージ練習時の圧迫リズムの視認用
- ・ポケットマスク4個 人工呼吸練習時の感染予防バリア
- ・エピペントレーナー5個 アナフィラキシーショック時の応急手当訓練用
- ・充電池一式 AEDトレーナーの駆動用:エネルーブ単3-4本付充電器、単3→単1アダプタ、単4-4本、単3-4本



得られた効果

- ☆購入した備品を活用して、AED講習会を企画した。通常の活動時には認められていないパソコン要約筆記通訳の公費派遣がその講習会には認められた。
- ☆AED講習:公益性が高いためと考えられる
- ☆通訳ボランティア団体から今後の通常活動への新たな企画の提案をもらうことができた。

問題点

予定していた備品の欠品に伴う品目変更、
納期遅延による購入スケジュール変更

次の課題



今回の申請で認められなかったパソコン購入が大きな課題。パソコンの老朽化が著しく、今回の講習会資料の作成において、PCのフリーズ、操作時の反応の悪さなどによって非常に困難を極めました。今後は、講習資料作成だけでなく、主たる活動(メール相談、HP・ブログ更新)である情報発信がより一層困難になることが予想されます。

認定特定非営利活動法人子どものみらい尼崎 すこやかプラザ

<http://goope/amakmirai>

【所在地】 兵庫県尼崎市

【対象者】 発達障がい者、児童

【日常の活動】

- ◇国の地域子育て支援拠点事業として、つどいの広場「こんぺいとう」「びすけっと」「どろっぶす」の3か所を尼崎市から受託し、常設の広場を開設している。
- ◇尼崎市立すこやかプラザの指定管理者として、子育て支援、高齢者・障がい者福祉、まちづくりの事業を行っている。
- ◇発達障がい等の子どもと親が、安心して遊ぶことができる「おもちゃ図書館どろっぶす」を週1回開設。
- ◇貧困やネグレクト等の課題をもつ子どもを対象とした体験活動「こどもカレッジ」および「こども食事会」。
- ◇親子のふれあい遊び講座「ライフスポーツキッズ」を年間3コース(15回)実施。
- ◇尼崎市の全出生児(年間約4000人)へ、オリジナル赤ちゃん絵本『とんとんとん』をプレゼント。
- ◇シニア世代と子育て世代の交流事業「地域祖父母事業」を年間2地区で実施。

「障害のある子を持つ母親のグループ活動支援と子育て支援事業」

実施内容

【助成額】 29万円

ダウン症親子が定期的に集まり、語り合う場を提供するため、交流の場の環境整備用の備品を購入しました。乳児が寝転んでも安全なソフトタッチマット、幼児がパズルやお絵かきをするためのミニテーブルの他、追視のできる玩具や指先を使う積み木、動きを楽しむ車など、様々な発達段階の子どもが遊ぶためのおもちゃを多数購入することができました。

得られた効果

ダウン症児とその家族が気軽に集まれる場所を月1回常設することで、同じ境遇の親子の出会いの場を提供し、親子の孤立を防ぐことができました。

また、これまで接点のなかった地域の子育てグループの親子と交流する機会を持つことにより、相互理解を深め共生社会への意識を高めることができました。さらに、教育や保育を学ぶ学生が毎回ボランティアとして参加しましたが、ダウン症への理解だけでなく、その家族の心情等を知る貴重な体験となったようです。

問題点

特になし

次の課題



今回の事業を通じて、ダウン症と同じ先天性染色体異常でも「18トリソミー」などより重度の障がいのある子どもとその家族への支援が少なく、当事者グループの活動も少ないことを知りました。

人工呼吸器など医療的ケアも必要であり、親子が集まれる場所も限定されると当事者から相談を受けましたが、法人としてどのような支援ができるかは今後の課題です。

特定非営利活動法人サポートステーションFlat Trunk

【所在地】 兵庫県西宮市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援、生活介護
入所施設で公的サービスを支給決定されない方への外出支援
緊急時の宿泊対応

「豆腐製造機器一式」

実施内容

【助成額】 66万円

消毒槽(ボイル槽): 充填豆腐の加熱成形で使用

冷蔵庫: 原料の豆乳保管および製品の一時保管

二槽シンク: 使用機材の洗い場

作業台: 豆腐製造時に使用

TK-8型ハンドシーラー: 充填豆腐などの製造に使用



得られた効果

移転してまだ間もないですが、新しい店舗で利用者の方と豆腐を販売することで近隣の方に障害がある方が頑張っている場所だと少しずつ認識して頂けている。豆腐製造機器一式を導入したことで、設備が充実し製造室を見学に来られた方にも衛生面、設備面で納得して頂けるようになった。また、利用者、職員の豆腐製造にかかる意識も以前に比べて高まった。

問題点

特になし

次の課題

以前に比べると生産量がアップするので、どのようにして販路を広げていくのか、飽きられないように定期的に新商品の開発をして製造販売していくのが課題です。食品を取り扱うため、衛生的な事が特に重要となり機器の日常の管理に加えて、長期的なメンテナンスなどの維持管理をどのように行っていくのか、また利用者がどこまで関わっていくのが今後の課題になると思われます。



要約筆記ボランティアサークル「マルヨかんざき」

【所在地】 兵庫県神崎郡

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

1. 福崎町社会福祉協議会主催のボランティアまつりに毎年出店。テント内で要約筆記を体験してもらう。(2017年4月8日 大人50名、子ども136名が体験)
2. 市川町社会福祉協議会主催の身体障害者総会及び福祉大会での活動(1対1のノートテイクを2人で行う)
3. 県教育委員会主催「播磨西くすの木学級神崎教室」での活動。(7～10月)
4. 3町の社協の協力で毎年「要約筆記入門講座」を実施。(4～6月)
5. 一般ボランティア

「聴覚に障害のある人を支援する要約筆記の機材購入」

実施内容

【助成額】 8万円

エルモ社より購入

「インタラクティブ書画カメラ L-12iD」一式(みエルモン)

使用状況

平成29年11月18日に納品され、業者より基礎的な説明を受けた。その後、市川町公民館において、月2回程度練習日を決めて、組み立て、接続、ピント合わせ、文字の書き方など練習をした。

従来使用してきたOHPと扱い方が異なるため、慣れるのに時間がかかった。11月～3月まで練習に励んだ。

書画カメラは持ち運びもしやすく、また特別のスクリーンや偏向グラスも要らないので、早く習熟したいと願っている。

平成30年度から諸行事においてこの書画カメラを使用して要約筆記の活動を始める。



得られた効果

20年近く使用してきたOHPから書画カメラへの切り替えは、当サークルの悲願であり、貴福祉財団のおかげで、その実現に踏み出すことができた。

全員が初めてであり、今まで以上に協力して活動に取り組むことができた。要約技術向上にも励んだ。

そうした中で、「要約筆記」の存在が行政機関にも少しずつ認識されるようになった。3月初めには、手話と共に当サークルに派遣依頼があり、西播ブロック地域啓発福祉大会に参加し、要約筆記を行った。(4市6町の約100人対象)

問題点

特になし

次の課題

中途失聴に加え、最近では高齢化による聴覚障害が増えている。補聴器は眼鏡に比べ、価格も高く、扱い方も簡単とは言えず、誰もが使用できる段階ではない。

高齢者対象の講座が活発であるが、“耳が遠くてさっぱり分からなかった”という声を聞くことが増えた。

また、災害時や避難所での連絡、日常生活における病院通いや買い物などに、要約筆記がもっともっと普及すれば、聴覚障害者の安全安心につながると思う。

また、講座や講演会に、人数の多少によらず書画カメラは役立つのでサークル員を増やし、技術の向上とチームワークの育成を目指したいと考える。

特定非営利活動法人きらめき

<http://stork-farm.main.jp/>

【所在地】 鳥取県西伯郡

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業所(定員10名)現在利用者1名

①原木椎茸の周年ハウス栽培及び販売 ②農薬・科学肥料を使用しない野菜栽培

就労継続支援B型事業所(定員20名)現在利用者18名

①農薬・化学肥料を使用しない野菜栽培・販売 ②EMボカシ(肥料作り・販売)

③加工品の製造及び販売

こだわり豆腐作り、トマトケチャップ、ジャム(林檎・20世紀梨・赤梨・ブルーベリー)

「野菜栽培ハウスのビニール張替と農機具購入事業」

実施内容

【助成額】 28万円

1. 農機具購入事業

管理機ヤンマーYK650MRUVHL1台を、鳥取県米子市淀江町小波1038-7(有)山根農機商会から224,640円で購入。使用は、畑の耕運による除草を中心に、うね立て・うね盛りなど多用途に使用していく。

2. 野菜栽培ハウスのビニール張替え工事

幅6m、長さ22mのビニールハウス張替え工事を実施。

施工者は、鳥取県米子市両三柳2864-10(株)ランドサイエンスで請負金額は130,289円。

このハウスでは、トマトや茎ブロッコリーを農薬や化学肥料を使用しないでEMボカシを使用した有機栽培を行う。

得られた効果

1. 農機具購入

管理機の購入では、利用者は、自分たちで畑が耕運できるという、作業に対する意欲がでている。意欲的に作業に取り組むことで、積極性が育み、社会参画していく機会も増えていくものと感じております。

2. ビニールハウスの張替えにつきましては、農業での事業収入は、天候、病虫害の発生等により不安定であり、なかなか自主財源のみでは計画どおりにすることが難しい状況でした。そのような中で、各方面から助成を頂き、老朽化したハウスの修繕ができ、大変有難く思っております。利用者が、外に出て体を動かし、時には大きな声を出したり、元気に働く姿をみて、地域の方から声を掛けていただくこともあり、障がいに対する理解も年々広がっていると感じております。

問題点

特になし



次の課題

山陰では、冬期間積雪もあり路地での野菜は大根、白菜、白ネギが中心ですが降雪の日も多く、屋外での作業ができない日もあり、冬期間のビニールハウス内での野菜栽培の作業体系の確立と利用者の技術アップを図っていくことが必要となる。



特定非営利活動法人さくら ふくしあ就労継続支援B型事業所

<http://sakura.12.25@grape.plala.or.jp/>

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、難病患者、高齢者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所

「重度障がい者がスタッフと製品を企業へ納入する車両の購入費」

実施内容

【助成額】 100万円

精神障がい・知的障がいのある方が、地域企業からの受注作業に取り組んでおります。

現在5社の受注先(ねじの組み立て、金属のリサイクル、クーポン貼り、ハシの袋入れ、バリ取り)の納品、仕入と利用者の送迎も増えてきて、現在3台の車を使用しています。

その中に購入しましたシエンタも含まれています。

また建部事業所の送迎にも使用しています。

得られた効果

中古の車を購入する時、車会社に購入の理由を説明し、障がい者のB型事業所の理解、新しい支援者を得られました。

問題点

特になし

次の課題

ネット、ホームページの更新をこまめにして理解者を増やしていく必要があると思いました。



特定非営利活動法人あさひ会 障害福祉サービス事業所あさひ・はばたき

【所在地】 高知県高知市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

利用者への就労・生活支援活動

☆あさくら共同作業所

下請け作業所（ティッシュの袋詰め、箱折り）、リサイクル作業（空き缶、廃棄銅線の分別）、バザー

☆はばたき共同作業所

農作業、下請け（菓子箱折り）、リサイクル（空き缶つぶし）

☆わかくさ共同作業所

クッキーの製造、販売

「エアコンを新しい B 型事業所に設置します」

実施内容

【助成額】 36万円

11月 2日エアコン取り付け工事実施

11月17日支払いを完了

得られた効果

☆木口福祉財団主催「市民活動団体交流の集い 2017」に参加し、他の事業所の取り組みを学べたこと

☆エアコン取り付けをお願いした電気屋から廃棄銅線をいただいたこと

☆作業環境の改善により、肢体不自由養護学校高等部 3 年生 2 名、体温調節が困難な方を 3 月卒業後受け入れることが出来ることになった

問題点

特になし

次の課題

エアコン設置により快適な作業環境を作ることができました。

次は利用者の工賃向上につながる作業種の開拓です。廃棄銅線のビニールはがしや、ナスの選別、袋詰めなどの下請け作業を行っています。自社製品の開拓と販路の確保を図り、収益の増、工賃の増を図って行きたいと考えています。

2017 年 10 月 21 日木口福祉財団主催「市民活動団体交流の集い 2017」で宝塚し自家焙煎工房 Hug の活動報告を聞き「これは自分とこの作業所でも取り組めるぞ」と思い、2 名で訪問し、勉強させていただきました。2018 年 5 月より「自家焙煎コーヒー」販売に取り組むことができるように焙煎機の購入など準備を進めています。

特定非営利活動法人夢ありあけ

【所在地】 佐賀県多久市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- B型就労支援事業所「rice & onion」の運営。事業所では、パンの製造販売に取り組みます。事業所内に、パン製造のための設備を設置して、利用者がパン製造に取り組みます。計量し、生地を丸めて、成形し、オーブンで焼成します。利用者により個人差はありますが、指導員の支援により、焼成の作業等の、技術を習得します。販売は、店舗販売と移動販売ですが、移動販売が主となります。移動販売を通して、パンの販売による収益を得るだけでなく、お客様とコミュニケーションを図り、対人関係での壁を少しずつ取り払うことに努めます。移動販売は、移動販売用の車両で、指導員と利用者が同乗して、地域を巡回して販売に当たります。店舗販売は、事業所に販売スペースを設けて、利用者が主体的に、接客、販売に当たります。生きづらさを生きやすさへ実感できる、人と環境づくりで障がいの壁を取り除きます。
- 障がい者ともに、町内の清掃活動等、地域の保全につながる活動を行っていきます。知識や経験豊富な高齢者、子育てを終えた主婦の方々にも多くご参加をいただき、福祉の担い手になっていただけるような作業の実施、イベントの開催等を行います。またパン教室を通して、福祉事業所を広く知っていただき、地域の子供から大人までの交流の場として、また、みんなが同じようにできる力をもっていること、平等であることを浸透していきます。

「利用者と共に生き、取り組むパンの製造販売活動のための環境整備」

実施内容

【助成額】 100万円

平成29年8月に、NPO法人の主たる事業として、障がいを持たれた利用者を中心に、パンの製造販売に従事する作業所「シロイロパン」を開設しました。作業所の施設については、白石町の空き家を再利用して改装、パンの製造販売ができるように整備しました。改装後、厨房設備の購入を行い、その中で、必要とされるオーブンとミキサーについて、木口財団様の助成金を申請し、購入させていただきました。購入後は、厨房内に設置しています。

尚、他の設備は、自己資金及び金融機関様からの融資で調達しました。8月の設備導入後も、オーブンに向けた準備を進めて、パンの製造販売作業所「シロイロパン」として、平成29年9月13日にオープンすることができました。オープン予定が当初の7月からかなり遅れしまったことで、スケジュールの変更を余儀なくされました。

作業所施設、設備の設置後、製粉会社の技術者を招いて、講習会を実施予定でしたが、技術者との日程調整が上手くいかず、雇用するパン製造の職人雇用するパン製造の職人である職員を中心とした講習会に変更しました。無事オープンでき、その後は、障がいを持たれた利用者を中心に、当NPO職員がサポートして、日々パンの製造販売に当たっています。購入させていただきましたオーブンとミキサーは、パンの製造に使用しています。利用者による販売実践のための、販売研修も開催します。丁寧な接客、販売ができるように努めていきます。

得られた効果

精神障害を持たれて、他の作業所等では上手くなじめなかった方も、当作業所では、他の利用者、職員とも馴染んで、楽しく作業に携わり、コミュニケーションもできるようになったこと。利用者も楽しく作業ができ、職員である私たちも、一緒に働き、ものづくりに携わる喜びを感じることができました。カフェ等、一般の事業所の経営者の方、店舗との連携も行って、作業所の運営やイベントを通して、地域で共生していけること、その尊さを改めて実感しました。

問題点

利用者の確保が、予定していた通りにいきませんでした。障がいを持たれた方は多くおられて、就労支援を希望される方もおります。しかしながら、そのような方とのマッチング、また、お会いする機会があっても、ご本人にとって、作業所へ通うことについて抵抗を感じられることもあり、そのことが、利用者確保が進まない大きな理由となっています。具体的には、作業内容への適応、通所の距離、作業所での日常生活への適応の難しさ等が挙げられます。

次の課題

パンの販売自体は、利用者と共に、地域の事業所等を訪問しての販売活動も行っており、販売していくことの難しさは感じています。購入していただき、食べていただくためには、新たなパンの商品開発も必要です。また、製造販売に当たっては、利用者の関わり方、そこで得られる喜びや対価としての工賃を増やしていくことが、今後も継続して取り組まなければならない課題として、改善、向上に取り組んでいきたいと思っております。



特定非営利活動法人SPICY

<http://www.npo-spicy.com/>

【所在地】 長崎県長崎市

【対象者】 発達障がい者、支援者

【日常の活動】

- 自閉症スペクトラム障害児・者の療育、就労支援及び生活支援に関する事業(自閉症スペクトラム障害をもつ子どもから大人に対する特性把握のためのアセスメントやその後の個別支援として、療育や面接を行っています。)
- 自閉症スペクトラム障害児・者の障害理解に関する講習会・研修会事業(自閉症スペクトラムの支援と理解に関する勉強会や研修を行っています。親の会や大学の職員研修など、対象は様々です。)
- 自閉症スペクトラム障害児・者の家族及び関係者に対する相談、情報提供事業(ご家族からの依頼で、学校や事業所などに赴き関係調整をはかる訪問支援、施設からの依頼で事業所等の関係機関に赴く施設支援、電話相談、年間単位で4回の施設支援と電話相談を組み合わせる協働して支援をすすめるコンサルテーションが、この事業に含まれます)

「自閉症スペクトラム支援における音環境整備事業」

実施内容

【助成額】 22万円

物品購入

AURAL SONIC カームダウンパネル (FF V字型パネル W600×H1300 2セット)

カームダウンコンパクト 1セット

使用状況

聴覚刺激により、注意のコントロールが難しいと思われる自閉スペクトラム症の方の個別介入場面において、パネルを設置し、音環境の調整をはかっています。パネルは騒音をきこえなくするものではなく、周囲からの音を調整し、対話をする際に相手の声に注意を向けやすくすることを目的として使用しています。それにより不要なストレスの緩和もねらっています。

また、コンパクトタイプの調音パネルはリラクゼーションに役立つ方もおられ、落ち着いて穏やかにくつろぐ体験をしながら、リラックスした気分を意識したり、またその様子をご家族も見たり試したりする中で、日常の中の音環境への配慮に意識を寄せるコメントなども語られています。まだ購入して間もない段階ですが、今後も必要な方への音環境調整及び関係者への意識付けに役立てていきます。

得られた効果

当法人では、自閉スペクトラム症の方への介入を行う一方で、環境への働きかけを行っています。中でも音環境については、これまで防衛グッズ(ノイズキャンセリングフォンやデジタル耳栓)の無料貸し出しをするなど取り組んできましたが、今回の事業では防衛前の整備として、聴覚特性への配慮に取り組む機会を得ることができました。物理的構造のように目に見えて誰もが分かるものと違って、聴覚環境という目に見えない感じ方の違いによる負担を緩和する試みを採択いただいたことで、これらの取り組みへの関心そのものが、当事者と普段から過ごすご家族に改めて認識されました。

近すぎて、気にとめなくなっていた音環境への配慮を最も身近な家族が意識していただくことで、本人たちへのフレンドリーな環境づくりへ一歩前進できるのはと期待しています。

問題点

特になし

次の課題

自閉スペクトラム児・者支援に携わる人や組織は多くあり、また年々増えてきているように思います。空間的工夫がなされている現場も見られますが、それでも音環境のせいには必要と分かっているながら後回しになりやすいと感じます。実際には、音環境へのストレスが基本にあり、適応的に過ごせなかったり、他者を巻き込んだトラブルへと発展する現場が多く存在しています。感覚特性は、本人になりかわらない限り、真にその負担感を知ることはできませんが、それでも意識をもって工夫を試みることはやめてはならないと感じます。ただ防衛手段のみを提案するのではなく、快適な環境を模索するという本事業を通して、関係者へアピールしていくことも課題となろうかと感じています。



社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 千葉聴覚障害者センター

<http://www.chibadeaf.or.jp/>

【所在地】 千葉県千葉市

【対象者】 視覚障がい者、その他

【日常の活動】

当法人は、千葉県の聴覚障害者等を支える拠点として、また聴覚障害者に関する総合支援センターとしての役割を担うため、以下の事業を行っています。

手話通訳・要約筆記の派遣事業、ビデオライブラリー事業を担う「千葉聴覚障害者センター」を2002年に開設し、さらに2007年に千葉県内唯一の聴覚障害者情報提供施設を法的施設として位置付けた。その他の事業としては、相談支援事業、障害福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）、移動支援事業、老人居宅介護事業を行うとともに、地域活動支援センターとして2事業所、就労継続支援 B 型として1事業所、共同生活援助・短期入所として1事業所、それぞれ事業展開を行っています。

■余暇支援

・聴覚障害者ミニデーサービス ・聴覚障害者のための手話学習会 ・高齢ろう者のための長寿を祝う会

■権利擁護

・無料法律相談 ※当事者弁護士による相談は1回目は無料。その後裁判手順に入る場合は申込者には当弁護士の必要経費を負担していただく。

■スポーツ・文化活動

・日曜教室 ・その他（講演会など）

■啓発事業

・手話を考えるフォーラム ・耳の日まつり

■その他

・出版事業

「手話ができる介護ヘルパー養成事業」

実施内容

【助成額】 100万円

「聴覚障害者及び手話のできる健聴者」を対象とした介護ヘルパー養成講座を開講した。「千葉県介護職員初任者研修実施要綱」に従い実施されたものであり、期間は、平成30年1月27日（土）～3月24日（土）の土曜日・日曜日・祝日・水曜日で演習7日、講義16日の計23日（全130時間）で行われた。全過程手話通訳者を配置し、全130時間の演習及び講義を行った。欠席したものについては、補講をレポート提出を行った。3月24日（土）修了試験を実施し、全員合格点（70点以上）であった。3月31日（土）修了式を行い、事業の終了となりました。

得られた効果

受講生一人一人の感じ方が、始まった当初よりみるみる変化が起こっていったと感じられた。それぞれの受講目的は違ったとしても、受講して相手に対することとはどういうものなのか、どの様に接するものなのか明確になったのではないと思う。人生の起点に立った思いであるのではないか。また、高齢化に伴い、介護ヘルパーの必要性は増大しており、特に聴覚障害者及び聴覚障害者を取り巻く方々の介護ヘルパーとしての雇用確保の一助となったことは甚大なことである。

問題点

特になし

次の課題

当法人としては、手話のできる介護ヘルパーの養成には、特に必要性を感じている。社会の高齢化に伴い、手話のできる介護ヘルパーを必要とする聴覚障害者も増加の一途を辿りつつも、それをカバーしきれない介護ヘルパーが不足しているのが現状である。それを少しでも解消すべく、今回助成金をいただき、手話のできる介護ヘルパーが7人とはいえ誕生させることが出来たのは大変重要なこととあります。今後毎年でも開催できればと思うのですが、決算報告を見てもおわりの様に、かなりの出費を強いられるため、常時開催することはできないのが現状である。

前向き闘病の会

【所在地】 千葉県大網白里市

【対象者】 難病患者、その他

【日常の活動】

■前向き闘病の会入会案内を関係機関に対し、設置及び配布しています。

「前向き闘病の会リーフレットの作成」

実施内容

【助成額】 15万円

前向き闘病の会 リーフレット 30,000 枚の作成と 27,000 枚の増刷及びリーフレットの配布

平成 29 年 12 月から平成 30 年 3 月にかけて計 175 か所に配布

平成 29 年 10 月 各機関などに電話や訪問しながらリーフレット設置の交渉手続きを実施
新役員とリーフレット作成について再協議、印刷会社と打ち合わせ

平成 29 年 11 月 原稿校正、役員会開催、印刷会社と打合せ

平成 29 年 11 月 リーフレット完成(30,000 枚)

平成 29 年 12 月 リーフレット配布開始

12 月 1 日に退会された会員(大阪府・K)様から一身上の都合で退会しますと電子媒体で連絡を受け承諾をした後、暫くした後、電子媒体で苦情と抗議され、リーフレットに掲載したコメントについて削除願いたいと、退会された会員女性の重症患者 3 人から抗議を受け、手元にある部数(27,000 枚)を削除することとなりました。

平成 29 年 12 月 リーフレットのシールについて印刷会社と打合せ、役員に報告し協議打合せ

(コメントを削除するには、シールと新たに作り直しの値段を比較したところ、シールの場合は、シール8cm×7cmを 27,000 枚だと 205,000 円であり、三つ折リーフレット作り直しの場合は、27,000 枚だと 100,000 円でありました。従いまして、三つ折リーフレットで作り直しと決定)退会した大阪府・T様を經由し修正した内容を写メしたものを電子媒体で送信したところ、退会された大阪府・K様は安心されたとのこと

平成 29 年 12 月 27,000 枚増刷を依頼済

平成 30 年 01 月 リーフレット増刷版配布開始

各機関などに電話や訪問しながらリーフレット設置の交渉手続きを実施

得られた効果

電話やメールでの相談が増えました。少しずつではあるがこの疾患に対して、痛みを抱えていらっしゃる患者様の言葉に対して傾聴していただけるようになりました。

問題点

リーフレット掲載に対する苦情

次の課題

病院にリーフレットを置いて貰うことが難しい



<http://guesthouse.or.jp/>

【所在地】 東京都品川区

【対象者】 難病患者とその家族

【日常の活動】

- 難病児ご家族からの電話対応
(利用予定者とのやり取り、過去利用者のフォロー)
- 医療従事者への情報発信、ネットワーキング
- ボランティアスタッフへの事業案内・講習
- 総務や経理など管理業務
- 支援者・支援企業への情報発信
- 資金調達

「医師ボランティアの同行による、難病児とご家族の東京旅行支援」

実施内容

【助成額】 100万円

【事前の準備・医療者とのネットワーク】

2017年10月10日～12日:病児宅、病児主治医病院での打合せ

2017年10月 同行のボランティア医師2名への詳細の説明

2017年10月 宿泊施設への利用申し入れ・事前の説明

2017年10月～11月:テーマパークへの事前申し入れ、食事とチケットの手配

受け入れボランティアの募集と説明会実施*

* 病気の概要、家族構成、受け入れにあたっての留意点を、三菱重工本社にて参加ボランティアに説明

【病児とご家族の東京旅行】

2017年12月6日-9日:病児とご家族の旅行を実施

【関連する事後の業務】

2017年12月～2018年1月:同行医師へのヒヤリング*

2018年1月～3月:今後の医療者とのネットワークの課題を取りまとめ*

2017年12月～2018年1月:費用の清算作業

2018年2月～3月:協力会社・ボランティアへの御礼挨拶

2018年5月:医療者への次年度協力の申し入れ(病院宛への正式な依頼)

* 事前の審査(選考委員会)にも同行ボランティア医師が加わると、より安全性を高められるのではないかと。

* 同行するときにあると良い備品の洗い出し(吸引器を団体の備品として準備する)。

* 医療機関の利用が必要になる場合、緊急搬送指定病院以外にも協力先のクリニックを増やしておくが良い。

* 正式なボランティア参加とできるよう、次年度から医師の所属病院へ申し入れをしてはどうか。

得られた効果

■ ボランティアに参加してくれた医師2名から、多数の意見をいただきました。安全対策の強化として、ボランティア医師の1名が新たに選考委員(病児の旅行可否や移動時の留意点等を審査する委員会、これまで3名の小児科医で運営してきました)に加えてくれることになり、選考・審査と実際の旅行中の同行につながりができた点は、重症児・希少難病児の支援にサービスを特化していきたいという団体の大きな後押しとなりました。

■ 受け入れボランティアに参加してくれた方から、あらたにスポーツチーム(女子サッカー「ノジマステラ」)のご紹介があり、2018年3月に、チャリティ・オークションを開催していただきました。支援の裾野が広がり、またスポーツチームを通じてファンの方々にも広く団体の存在を知っていただく機会を得ました。

問題点

医療者との連携に関して、当初は実施後に、幅広く医師のボランティア参加を呼び掛けることを想定していました。しかし、病児ごとの病気の種類が希少であること、容態の変化も大きいため一般的な参加の仕方を促すことが難しいと参加医師からのコメントがあり、一般化したリーフレットの作成は見送りました。そのため、幅広い医療者向けの広報活動は中期的な課題となりました。

半面、当初は同行ボランティア医師は1名を見込んでいましたが、2名の医師が往路と復路に分けて同行してくれたため、2人の意見を聞くことができました。また、2名のうち1名が選考委員会(病児の移動や旅行の可否を審査する委員会)に加わってくれることとなり、事前審査と旅行中の情報共有確度が高まりました。

また、試験的に医師のボランティア参加を試みた結果、2018年度は医師の所属するクリニック(東京都立小児総合医療センター)へ正式なボランティア参画を依頼することにつながり、今後もう少し多くの医師への参加の呼びかけがしやすくなりました。

次の課題

■病児とご家族の写真を利用した広報活動は(これまでもそうなのですが)非常に難しく、旅行の様子を人に伝えるのに苦戦しています。医師やボランティアが病児をサポートしている後ろ姿の写真の活用や、旅行までの一連の流れをイラスト化するなど、個人情報に配慮した広報のやり方を工夫しないと、幅広いPRは難しく行き詰まりそうだと感じています。

■ボランティアに参加してくれた2名の医師からは、安全面への配慮を優先したうえで、徐々に医療関係者の参画呼びかけをした方が良いとのアドバイスを頂きました。少し広報的な成果を急ぎ欲張りすぎて反省しましたが、貴財団のご支援により2名の医師が今年から改めて正式にボランティア登録してくれる結果となりました。広報的な成果物を十分に作成できなかったのですが、2018年度中に、少なくともWEB上に、医療者向けのページを設けることで、より土台のしっかりした医療者への呼びかけが可能になると感じています。

特定非営利活動法人 サイレント JAPAN

【所在地】 東京都町田市

【対象者】 聴覚障がい者

【日常の活動】

- ろう者や手話に関する講演会
- ろう者や手話に関するスポーツ&文化などの博覧会

「国際手話通訳者養成プログラム」

実施内容

【助成額】 77万円

7月15日(土)AM10-12 ワークショップ・ウエスタ川越、エスタ川越

7月17日(月・祝)AM10-12 講演・浅草文化観光センター

7月17日(月・祝)PM2-4 ワークショップ・浅草文化観光センター

9月8日(金)~10日(日) JAPAN DEAF EXPO(大宮ソニックシティ)開催の中、国際手話通訳者による審査評価



得られた効果

フランス科学博物館アクセシビリティ責任者オリビエ氏・国際手話の講演やワークショップは国際手話でガイド表現方法を学ぶことをメインで、参加者たちは通訳という高いレベルよりも観光ガイドなら私でもできそう。と自信を持った人が多く見られた。世界遺産の群馬・富岡製糸場にも手話ガイド導入する予定(現在実施)で、日本手話だけでなく、国際手話にも取り入れたい要望があった。参議院薬師寺みちよ議員も今井絵理子議員も国際手話ガイドや通訳者の必要性を共感しておりました。2020年オリンピックパラリンピックの関連で外国人ろう者たちが観光するであろう東京と埼玉の各観光地、博物館にアクセシビリティチェックも確認してきた中、色々改善が必要だという面が多く見られた。案内TV画面には日本語字幕にも手話にも導入されていない所が多い。また色盲の方にも見えづらいパネル色もあり、車イスやベビーカーでは通路不便だと感じる道などもあった。音声ガイド機器もあるが、ろう者は使えない状態など問題点が見られた。改善しなければならないという点は、私たちからの要望や改善手段などを提案していく。

問題点

8人の審査員に手話通訳者チェックの予定だったが、審査の場所が悪く、数人審査できなかった。業者との打ち合せでうまく伝わらなかったため、手話通訳用のカメラがライブのみで、録画記録があるのは一部だったため、再生し確認することがほぼできなかった。舞台用の映像記録があったとして手話通訳者の画面が一部しか映らずチェック対象とならなかったため、現場で審査できた人が限られてしまった。

次の課題

2020年オリンピックパラリンピック前の準備すべき国際手話ガイドや通訳の質と人数を増加するためにワークショップを年4回ほど開催したいと思っています。また指導者と審査員を増加するためにカリキュラムなども準備期間を置く。日本中にある世界遺産や博物館などにも日本手話・国際手話ガイドを置き、日本ろう者たちも快適に観光が楽しめるよう、また訪れて頂けるように観光地などと話し合いが必要。

特定非営利活動法人そらいろプロジェクト京都

<https://www.sora-pro.jp/>

【所在地】 京都府京都市

【対象者】 発達障がい児

【日常の活動】

スマイルカット

理・美容院で椅子に座ってカットができない、自閉症や多動症などの障がいをもつ子どもへのヘアカット。自宅での保護者のカットから理・美容室でのカットに変わることを目的に、障がい特性にあわせてカットの個別プログラムを段階をふんで行っていく。支援学校や幼稚園・児童館等で実施。現在通算のべ約1600名を超える子どもたちのヘアカットにたずさわる。多くの声を受け、全国へ広める必要性を痛感。講演会などの啓発活動を全国で実施。理美容にとどまらず、発達障がいの理解と啓発、困りを抱える家族の心のサポートと、その役割と責任は深まっている。

『「発達障害児、者向け理・美容技術プログラム」策定事業』

実施内容

【助成額】 100万円

(1) 「発達障害児・者向け理・美容技術プログラム」案の策定

理・美容師、発達障がいの専門家、保護者などを委員とする、「発達障害児・者向け理・美容技術プログラム」策定委員会を開催し、「プログラム案」を策定した。具体的には、下記①～④のとおり。

- ①障がい特性の理解 ②当事者・保護者の声や要望の理解
- ③障がい特性に応じた対応法の理解(構造化・視覚化の基礎知識)
- ④ヘアカットに必要な発達障がいのアセスメント方法
- ⑤構造化・視覚化を活用したヘアカットの実務対応

(2) 理美容師のための「発達障害児・者向けヘアカット講習会」の開催

全国の理・美容師を対象に、上記「プログラム案」に基づく講習会を東京・京都の二会場で開催した。

(3) 「発達障害児・者向け理・美容技術プログラム」報告書の作成

アンケート調査および講習会の結果を踏まえて、最終報告書を作成し、厚生労働省など関係行政機関、理・美容師養成施設関連団体、発達障がい当事者団体などに配布した。

東京 & 京都
発達障害児・者のヘアカット講習会
主催 NPO法人 そらいろプロジェクト京都
協賛 厚生労働省(子育て) 協力 社会福祉法人 南山城学園

2018年
東京会場 1月30日 火 東京芸術劇場・リハーサル室 (聴覚障・録音2分)
京都会場 2月5日 月 ホテルセントノーム京都・平野の館 (京都駅・徒歩3分)

開場 午後0時20分
講習会 開会 午後0時50分 ~ 閉会 午後6時15分(予定)

受講料 3,000円 (各一人)
定員 各50名
事前予約制 先着順

講習内容
●講義「発達障害とは」
●報告「発達障害者のヘアカットに関するアンケート調査結果」
●実践「発達障害者のヘアカット」
●ヘアカット演習

申込方法
●FAX又は下記お問い合わせより、必要事項を記入の上お申し込み下さい。
●お申し込み後、お申し込み確認書を送付いたします。お申し込み確認書が届いたら、お申し込み完了となります。

社会福祉法人 南山城学園 法人本部事務局
TEL 0774-54-7210 FAX 0774-54-2117
<http://minamiyamashiro.com/contact/>
〒600-0000 京都市中京区錦町1057-5541 053(14)0701311-131

得られた効果

☆プログラム策定委員会の委員間の強い繋がりができ、「理美容師教科書への掲載」に向けて、また、その他の発達障がいへの理解を深める活動について継続的な活動を行うこととなった。具体的には、そらいろプロジェクト京都、協力団体である南山城学園のほか、日本発達障害ネットワークをはじめとする当事者団体とのネットワークができた。本事業をきっかけに、日本発達障害ネットワークのご紹介により、厚生労働省主催の「世界自閉症啓発デー」シンポジウムにおいて、赤松理事長が登壇する機会をいただいた。

☆アンケート調査や講習会の開催について、そらいろプロジェクト京都、日本発達障害ネットワークのホームページでの告知、NHKなどマスコミへのプレスリリース、ツイッターやフェイスブックなどSNSで、本事業をひろく知っていただくことができた。

特に、NHKテレビ「超実践！ 発達障害 困りごととのつきあい方」に赤松理事長が出演し、多くの視聴者にそらいろプロジェクト京都の取り組みを知っていただくことができた。

問題点

特になし

次の課題

今後、発達障がいに関する配慮のできる理美容店を認証し、当事者や保護者の方が安心してヘアカットできる環境を整えることが必要である。

特定非営利活動法人ニュートラル

【所在地】 京都府福知山市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、不登校・引きこもり

【日常の活動】

平成28年度に、京都府ひきこもり訪問応援「チーム絆」地域推進事業(中丹・丹後地域)を受託し、概ね15歳から40歳までのひきこもり支援を開始。
平成28年10月より、兵庫県丹波市の「子ども・若者育成支援居場所運営業務」を受託。不登校や引きこもりの若者とその家族への、相談及び訪問支援、居場所事業を行う。
平成29年度は、「生活困窮者等就労準備支援事業」を京都府・綾部市・福知山市・舞鶴市より受託。生活保護受給者・生活困窮者の自立に向けた支援を行う。

「社会適応の困難な若者が社会に踏み出すためのシステム作り」

実施内容

【助成額】 14万円

和紙型染作業、型染ワークショップの実施

<物品購入>

- ・木刷毛(2寸)12本:わしを染める際に使用。角2本ずつ専用にして使用
- ・摺込刷毛3種 各10本ずつ:顔料の濃度の調整等に使用
- ・乳鉢9個:顔料と呉汁と混ぜて大量に作る時に使用。色ごとに鉢を分けている。
- ・彩色皿24枚:乳鉢で作った色を取り分けるときに使用
- ・顔料6色 大豆:呉汁の原料
- ・ロープ、ねじなど:染めた和紙をロープで吊り下げて乾燥させている
- ・バケツ、小物入れ、タライなど:和紙の糊落としや呉汁づくりなどの作業で使用。
- ・除湿器:染めた和紙の乾燥の為に使用
- ・スチール書庫:和紙型染物品をまとめて収納している

<活動の実施概要>

9月中旬～下旬:物品購入し、型染の準備を行う。

型染作業 10/4、20、25、27 11/1、6、10、15、17 1/17

型染ワークショップ3/5、6、7

(これまでの作業で分かった問題点の解決の為、黒谷和紙協同組合から和紙職人を招いて実施)



得られた効果

- 同じ作業を何度も繰り返す中で、本人たちに主体的に働く力がついてきた。これまでは、他者から言われたことを機械的に行うか、何もしないという行動が多かったひきこもりの若者たちが、どうしてきれいに染まらないか疑問を感じ、それを解決しようと自分で調べたり人に聞いたり、行動に変容が見られ始めた。
- 黒谷和紙協同組合との繋がりが緊密になり型染の受注の他、引きこもりの若者たちの職業体験を受け入れてくれるようになった。(京都府の青少年の社会的引きこもり支援「職親」事業への登録、受け入れ)

問題点

- 繰り返し型染作業を行ったが、職人さんたちが持つ技術や「カン」のようなものを習得することはなかなか難しく、10月～1月までの間に「商品」として買い取られた紙はなかった。その反省から、3月に職人さんを招いて3日間のワークショップを行った。
- 紙代補助として、参加費の徴収を予定していたが、工程が複数日に渡るため、1クールに1回の徴収とした。その為参加費を徴収する日としない日があり、参加費徴収が徹底できなかった。

次の課題

- 「自分のペース」を崩さずに、社会的に認められる程度までスキルを上げることはなかなか難しい。社会的に認められる程度までは上がらなくても、自分のスキル向上を自分自身で認められればいいのだが、自己肯定感の低いひきこもりの若者には、それもまた難しい。ただ、今回ゆったりとした場でともに作業をする中で、顔なじみのグループが出来てきた。自分では自分の事をなかなか認められないけれど、グループメンバーから認めてもらい、それを通じて少しずつそれぞれの自己肯定感が上がってきている。居場所、就労体験などそれぞれの「場」におけるグループ作りの重要性を実感するいい機会となった。
- 商品として納品し、対価を得ることのハードルはかなり高い。事業として継続していくには原資として紙代や顔料代を賄えるだけの利益が捻出できる必要がある。利益を生み出せるシステム作りが課題である。



特定非営利活動法人エンパワメントプランニング協会

<http://epo.d.dooo.jp/>

【所在地】 大阪府大阪市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、発達障がい者、支援者

【日常の活動】

- ①知的(発達)障害者と支援者と社会をエンパワメントする事業
講座、研究会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなど開催して、知的(発達)障害者にかかわる様々な問題や課題に取り組む。
- ②「支援」に関わる関係性と方法論の研究事業
事例研究会の開催、「知的(発達)障害者のある人と支援者の関係に関する基礎調査」実施。
- ③広報、出版、企画事業
ブックレットの出版、通信発行などで、上記①②の内容を冊子化して報告、広報する

「知的（発達）障害者の支援者エンパワメント事業」

実施内容

【助成額】 96 万円

次のような構成で二日間のセミナーを行った。

「支援と関係性」を考える支援者エンパワメント事業

【内 容】ここでわかる支援者エンパワメントセミナーEPO2018

テーマ:知的(発達)障害のある人の「支援と関係性」を考える-支援に関わる人たちはどう生きるのか-
講演/支援者と対論/親子対談/事例研究/フォーラム&トークの場/質疑応答で構成する。

【実施場所】大阪国際会議場/大阪府社会福祉会館

【実施日時】2018 年 1 月 27 日・28 日

【事業の対象者】会員、障害のある人の支援者、一般市民

<1日目概要> 2018 年 1 月 27 日(土)/大阪国際会議場

- ①講義:「私」がいまここでこうしていることの不思議-
-浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授)
- ②講義:支援者と介護者は、どこがどう違っていると考えれば良いのか-「なにもしないことと
「相模原事件」の間に立ちながら。-村瀬 学(同志社女子大学特任教授)
- ③講義&対論:支援者たちはどう生きるのか-支援者の葛藤、痛み、人生について
-渡邊 琢(日本自立生活センター・ピープルファースト京都)
○* 支援者と対論:渡邊琢vs山田剛司&梁瀬亜希子
- ④講義&対論:健常者に近づくと翻弄された10代~ピアウンセリングへの道へ-今、大切なのは支援者たちとの痛み
と絶望の分かち合い。-安積 遊歩(ピアカウンセラー)
支援者と対論:安積遊歩vs尾谷健二&尾川知

<2日目概要> 2018 年 1 月 28 日(日)/大阪府社会福祉会館

- ①講義:<世界>へ向かう時、<世界>から降りる時
-高岡 健(岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター児童精神科部長/発達精神医学研究所長)
- ②親子対談:「124cm からみた世界-車イスで生まれてきてよかった」
-安積宇宙vs安積遊歩
“ここでわかる5分間メッセージ”:支援者たちから「相模原殺傷事件へ」

- ③事例研究:報告1「愛称で呼ばないと怒るSさんと、愛称で呼べない、呼びたくない支援者」
梁瀬亜希子/山田剛司(えんぴつの家デイケアセンター)
:報告2「重度の知的障害(小頭症)-Bさん兄弟の一人暮らしを支える」
今井雄介/平岡美鳥(パーソナルサポートひらかた)
- ④フォーラム&トークの場“私たちはどう生きるのか「支援と関係性」を考える”
村瀬/高岡/浜田/渡邊/安積-参加者

得られた効果

知的(発達)障害者の支援者をエンパワメントする目的は得られたと受け止めております。
 なにより、「支援者はどう生きていくのか」と自らを問うテーマであったことと、「相模原殺傷事件」を起こした人間はもと支援者だという具体的な事実が、プログラムが進行して行くなかでつながっていった様子でした。登壇した支援者たちは現場の「支援と関係性」をより率直に開示、自己の思いを交えて対談やフォーラムに挑んだのです。
 思わぬ波及効果としては、身体障害者と知的(発達)障害者との違いが鮮明に見えてきました。
 例えば身体障害者との対談で、支援者が「そんなにコミュニケーション能力がある人は障害者ではないですよ」と言葉を発したとき、社会的視野の下で「障害とは何か」が具体的に見えてくるのです。そこから支援者に求められるものが明らかにされていくことが実践につながりやすいとだろうと思えました。
 支援者の発信力に焦点を当てた本事業は、このように支援者自らが切り開いていくことを周囲にも知らしめたのです。フォーラムでも肩を張らずに各々の自由なる発言が相次ぎました。終わりに名だたる講師陣が「今回が一番、非常に面白かったん違う」とつぶやいていました。
 支援者自身が自らの生と支援現場模様をからませて、相模原殺傷事件を語るということがほとんどない現状の中、2日間のセミナーで話されたこと自体が社会的に希少価値をもつと考えます。主催者としては、この様子を冊子化してさらに広く知らせたい、それは同じ支援現場で働く人たちもエンパワメントできる波及効果があると考えられます。

問題点

- 貸借料が高いために、当日持ち込んだプロジェクターの映りに問題が出た。映写の担当者が事前に確認していなかった。そのために、映像説明した登壇者2名が多いに不満をしめされ、申し訳なかった。手を尽くしたが、会場側の担当者も急にはどうしようもできない状況だった。
- 全体を見渡せる人間が事務局一人だということが問題である、当日のみになるにわかスタッフでは自分の担当部所以外にはうといし注意を払わないスタッフが多く、やむを得ない。が全体を統括責任者として、一人きりきり舞いする事務局だけでは限界があるし、精根尽き果てる2日間であった。
- 2日目のみの参加者を18人受入れたので、2日目は机なしの席も作り満席状態で参加者は肉体的にきつかった様子である。

次の課題

今後の課題「支援と関係性」の現場の理論化を進めていく予定です。



一般財団法人カナウ

<http://bari-furi.biz/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- 就労継続支援B型 ●放課後等デイサービス ●居宅介護／同行援護／移動支援
- ゆめのはこプロジェクト アートイベント(年1回) School & Salon(毎週末)

「障がい者デザインブランドの立ち上げ経費」

実施内容

【助成額】 100万円

- 「productmix Petit Pinceau」の商品発表と販路開拓に向けた設立イベントを開催。
- イベントタイトル:アトラボゆめのはこ～わたしのハート～
- 開催日程:平成 29 年 5 月 25 日(木)～30 日(火) (搬入日:24 日(水))
- 開催時間:10:00～20:00(最終日は 18:00 まで)
- 会場:三宮地下街 さんちかホール

●プログラム:【A. 販売ブース】【B. 展示ブース】【C. ワークショップブース】【D. 抽選会場】【E. プロモーションビデオ上映】

●内容:

【A-①】

- ☆オリジナルブランド「productmix Petit Pinceau」の商品販売。
- ☆デザイナーと播州織とのコラボレーションにより実現した布製品の販売。
- ☆アーティスト作品(陶器/絵てがみ/雑貨/テキスタイル等)の販売。

【A-②】

- ☆神戸市灘区自立支援協議会有志による、各事業所の自主製品の販売。
(食料/石鹸/雑貨等)

【B-①】…こどもイラスト公募作品展(協力:大阪ガス株式会社)

- ☆応募点数約 500 点。
- ☆入選 50 点はエコバッグにプリントしてプレゼント。
- ☆応募者全員に自分達が描いたイラストのオリジナル缶バッジをプレゼント。

【B-②】…法人内全グループのメンバーによる作品展。

- ☆障がい者公募作品展「ハートでアートこうべ」入選作品展。(立体作品)
- ☆ドローイング作品の展示。(泥パフォーマンスとハンドペインティングによる作品)
- ☆Petit Pinceau 商品に使用されたデザインの原画作品展。

【C-①】

- ☆神戸ファッション専門学校の学生によるワークショップ(ペンケースづくり)と商品展示。(播州織コラボの布を使用して商品加工)

【C-②】

- ☆カナウ協力アーティストによるワークショップ(刺繍/織物/クラフト/缶バッジ/絵てがみ/ライブペイント/フォトデコレーション等)とパフォーマンス。



【D】

☆お買い物をして頂いた方へのお楽しみ抽選会を実施。

【E】

☆アートセンター叶(一般財団法人カナウ内)の制作現場風景や日々の活動の様子を紹介。

得られた効果

●【アートセンター叶(就 B 事業所)のメンバーの意識向上】

商品化された各々のデザインのものをお客様に説明することによって、接客への意識の向上につながった。また、自分のデザインした商品が売れてゆくのを目の当たりにすることによって、制作へのモチベーションの向上にもつながった。

●【お客様の過ごされ方】

イベントが始まると、会場には(幼児から高齢者までの)たくさんの方々が集まり、それぞれの好きを楽しみながら過ごされ、笑顔に溢れていた。

●【今回のコラボ先との新たな展開】

①神戸ファッション専門学校…障がい者とのデザイン開発を授業に取り入れることで、作品が生まれる前のプロセス段階から生徒達が関わり、心の交流が期待される。

②播州織…今後も引き続き提携・協力して頂けることになり、さらなる布製品の展開につながった。

●【新規ボランティアサークル開始】

アトリエにおいて、地域の方々がボランティア活動として縫い手さん達のサークルが出来、月に数回活動を始めている。

●【企業 CSR】

社会貢献事業として、企業のノベルティ商品等の受注が入るようになった。

問題点

- 会場フロアへ入場して頂く際に階段を利用して頂くしか方法がなかった点。
→補助を必要とされる方(幼児・高齢者・車イス利用の方)の入退場への対応。

次の課題

- 今後も受注を受けてゆくための外注先(縫い手)の確保や、商品量産のためのネットワークやシステムを確立し、アート制作から商品化へ向けてのルートを安定させる。
- クオリティの高いオリジナル商品を宣伝するためにも、常設スペース(ギャラリーショップ等)の設立を実現化させる。
- 今回好評だった「productmix Petit Pinceau」のブランドコンセプトが、プロとのコラボレーションによる就労や表現、また価値の高い社会参加につながる新しい形として神戸から発信し続けてゆくために、新商品の開発・発表に向けて多くの方面でコラボの輪を拡げてゆく。
- 今後もひとりひとりの“出来る”を育み、共に“生きるを楽しむ”社会づくりに向けて精進してまいります。

もとまちハートミュージアム実行委員会

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 一般市民

【日常の活動】

- (1) 障がい者アート作品展『ドギドギ展—生きるもの』 障がい者・障がい児の絵画作品や版画など、個性豊かな作品の展示。
- (2) 作業所製品ワゴンセール『ハートショップ』障がい者福祉施設や作業所で作られたケーキ・クッキー、工芸品や生花など、手作りの温かみある商品の展示・即売。
- (3) コンサート『もとまちウキウキ』
障がい者を中心にした音楽グループの発表の場。ゲストアーティストとのジョイント等も行いながら、みんなで楽しむコンサート。
- (4) 『神戸ハンドメイドコレクション・杜』
作業所新商品展示とワークショップ「小規模作業所新商品開発事業実行委員会」の製品の数々を展示。
ワークショップも企画している。
- (5) その他、イラストレーターWAKKUNとともに絵を描くイベントや、兵庫のゆるキャラとのふれあい会。

「もとまちハートミュージアム 2017～人つなぐ道～」

実施内容

【助成額】 25万円

【名称】もとまちハートミュージアム 2017～人つなぐ道♡人にやさしい街づくり～

【会期】アート作品展:2017年6月2日(金)～2017年6月6日(火)

その他のイベント:2017年6月3日(土)

【場所】こうべまちづくり会館／神戸元町商店街(神戸市中央区)

【主催】もとまちハートミュージアム 2017 実行委員会

(神戸元町商店街連合会／神戸風月堂／WAKKUN／えんぴつの家／NPO 法人拓人こうべ／神戸ゆめ工房／NPO 法人リ・フォーブ／片山工房／一般財団法人兵庫勤労福祉センター／一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所／NPO 法人ネットワーク長田／近畿労働兵庫兵庫地区統括本部／全労済兵庫県本部／一般財団法人兵庫労働者福祉基金協会／ちゅうおう障害者地域生活支援センター)

【共催】こうべまちづくり会館

【実施内容】

- (1) 障がい者アート作品展『ドギドギ展—生きるもの』
出展者:池本佳代、勝村知子、木村篤志、笹谷太郎、日野成子
- (2) 作業所製品ワゴンセール『ハートショップ』
障がいのある人たちの施設や作業所で作られたケーキ・クッキー、工芸品や生花など、手作りの温かみある商品を展示・即売。今年は初めて、これらのクッキーやケーキを、道行く人たちに試食していただいた。そうすることで、はじめてワゴンに目を向けるひとも出てきた。
出店者:ワークスタジオ・グレイス(神戸市西区)、ふったあ福祉会(淡路市)、七つの海(神戸市長田区)、いちいちバザール(東日本大震災被災地障がい者事業所商品販売)
- (3) コンサート『もとまちウキウキ』
障がいのある人もない人も、ともに楽しむことができるコンサート。
出演者:加納浩美(歌手)、ないす(グループ)、濱田明展(三味線演奏)、ほっとぼっと(詩の朗読)、永井忠(ディジュリド演奏)
- (4) 『神戸ハンドメイドコレクション・杜』ワークショップ
杜が開発したクラブキットで、オリジナルクラブを参加者に作っていただいた。
- (5) ワークショップ『WAKKUN と絵を描こう』
神戸で活躍するイラストレーターの涌嶋克己(WAKKUN)さんと一緒に、たくさんの方々と一緒に絵を描いた。

得られた効果

わたしたちのイベントが始まったきっかけは、阪神・淡路大震災当時、作業所に通ってきている障害をもつ仲間の安否を確認するため、作業所の方々が一人ひとり訪ねて歩いたことからです。どこの避難所にいるのかわからずに、長い間探し廻り、ようやく無事が確認できた人もいます。そんな経験から、一人ひとりの顔が見える関係の必要性を強く感じたのです。

でも、障害者といわゆる健常者が互いに交流をもつ機会は極めて少ないのが現状です。

もとまちハートミュージアムは、元町商店街という町の中心地で障害者を中心としたイベントを開催することで、私たちの住む町には、障害をもつ人ももたない人もいるという理解を深め、顔の見える関係を築く一助となり得たと思います。

現に、毎年継続開催していることで、障害者アート作品展にはリピーターの方も多く、イベントを楽しみにしている、との感想をたくさんいただいています。

私たちのイベントのテーマである「障害をもつ人ももたない人も、ともに生きることを喜びあえるまちづくり」を実践するため、これからも継続してイベントを開催していきたいと思えます。

問題点

特になし

次の課題

特になし

もとまちハートミュージアム 2017

2017 地下ギャラリー
6/2 金 ▶ 6 火
障がい者アート作品展
『ドギドギ展～生きるもの～』
10:00～18:00
※最終日～16:00 来てほしいタン?

場所 こうべまちづくり会館
神戸市中央区元町通4-2-14

もとまちハートミュージアムは障がいのある人もない人も高齢者七子どももすべての人がともに生きてゆくことを喜びあえる場所をコミュニティづくりをめざして開催します。

6/3 土 楽しいね!

11:00～
●ワークショップ
『オリジナルクリップづくり』
●作業所製品ワゴンセール
『ハートショップ』

13:00～
●ワークショップ
『WAKKUNと絵を描こう』
●コンサート
『もともちウキウキ』

主催：もとまちハートミュージアム 2017 実行委員会
共催：こうべまちづくり会館
後援：神戸市／神戸市教育委員会／神戸市中央区／神戸市民文化振興財団／みなと元町タウン協議会／ひょうごボランティアプラザ
協力：連合兵庫

社会福祉法人神戸いのちの電話

kobe-life-port.org

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 不特定

【日常の活動】

- ☆兵庫県より 300 万円の補助金(継続研修、公開講座、夜間電話宅への)
※電話ブースを総合福祉センターに集約するため、民間マンションの借上げを解消する予定。
そのためマンション賃貸料分をカットされる可能性あり(100 万程度)
- ☆神戸市より 150 万円の補助金(相談員要請講座経費への)
県と市から補助金をもらっているが、財政全体では3分の1程度であり、基本的には会費(維持会費は相談員自身も負担、法人からの補助会費は年々減少)と一般寄付によって支えられている。賛助会費同様、一般寄付も年々減少している。

「相談員増をはかるため、相談員の負担を軽減し、広報活動を充実させる」

実施内容

【助成額】 29万円

○研修費の返金

☆これまで相談員はボランティア活動として、電話相談を行うだけでなく、自らの聴く力を向上させるため退会するまで、継続研修を受け続けなければならない。そしてそのための研修費を自ら納めていた。年額 4000 円。

☆年度当初、例年通り継続研修を受講する相談員は 4000 円を納めた。

☆貴財団の助成が決定した段階から返金を開始。

☆貴財団からの助成によって、ようやく相談員は研修費という自己負担を軽減することができた。

○広報活動

☆いのちの電話は匿名性、秘密の保持という制約が厳しく、相談員が自ら相談活動を行っていることを公表できない。PR活動が困難な状況にある。また、社会福祉法人としての様々のルールを含め、内部活動のための印刷物等を大量に印刷しなければならない。また文房具も必要である。

☆相談員に電話相談活動に関する必要な情報を提供する手引書(ハンドブックと呼んでいる)の発行・印刷を行った。年度内に発注したが、代金の支払いが4日になってしまった。

☆ボランティアの電話相談活動を広く知ってもらうため、2018 年 6 月にルアンダ難民で生活しているマリールイズさんの講演会を企画し、その案内パンフレットを印刷発注した。年度内に発注したが、代金の支払いが4日になってしまった。また、手違いにより発注枚数が少なくなってしまったので2度に渡っての発注となってしまった。

得られた効果

相談員の負担軽減、相談員の疲労感の減少、相談員の退会の減少、また、相談員養成講座の応募者の増加という好循環が続けば相談員の増加、365 日 24 時間化も可能となる。眠らない電話(いつでも悩みを聴く電話)の実現に近づける。

問題点

年度内に印刷物の発注を行ったが、期日がぎりぎりになってしまい、代金の支払いが次年度になってしまった。もう少し早く発注し、代金の支払いも年度内に行うべきであった。

次の課題

相談員数を増やすための取り組みに関して、これまで相談員の匿名性からなかなか積極的な活動ができていなかったが、相談員の負担を減らすことで退会者を減らし、また相談員養成講座の受講希望増へもつながることがわかった。財政的には苦しいが民間財団の協力をお願いして実現していきたい。

公益社団法人日本オストミー協会兵庫県支部

<http://www.ostomy.jp/hyogo/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 オストメイト

【日常の活動】

オストメイト・家族、医療関係者などを対象とした専門医、認定看護師による医療後援会、地域別研修会、体験交流懇談会、合同・個別相談会、入浴研修会、女性オストメイトの会、若いオストメイトの交流会など、年間を通じて実施、毎年のべ 1000 名が参加しています。

一泊研修旅行、日帰り旅行、カラオケ、懇親食事会などを随時開催しております。
オストメイト生活実態調査、市町アンケートの実施などを定期的に行っています。

「オストメイトのための医療講演記録集の発行と配布事業」

実施内容

【助成額】 29 万円

オストメイトのための医療講演会記録集の発行と配布事業

- ・冊子「ストーマ生活に役立つ医療講演集」(オストメイト医療講演集)
- ・B5版、モノクロ印刷、全 145 ページ、1500 冊

得られた効果

オストメイトの講演集は今回で3集目となるが、いつも好評で部数が足りなかった。今回は部数を増やしたのでより多くのオストメイトや関係先に配布できるので、情報の提供とともに社会の理解・認識を得るための有力な手がかりになった。

問題点

情報を得られない隠れたオストメイトがまだまだ多数いることから、今後ともシリーズとして発行して行かなければならないと考えている。

次の課題

情報を得られない隠れたオストメイトがまだまだ多数いることから、今後ともシリーズとして発行して行かなければならないと考えている。

望海地区住宅サービスゾーン協議会

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 障がい者、高齢者、児童、一般市民

【日常の活動】

まちかど健康教室(介護予防教室)

地域の課題を解決するための住民・専門職の合同会議。見守り会議。

地域の課題を解決するための地域劇。

空き家、コミセン、公民館などを活用し、こども、障がい者、高齢者の居場所を3地区年間で延べ500回開催し、延べ1500人参加している。

まちかどコンサートを年3~4回

男の料理教室を年に5~6回

幼稚園児の親子障がい体験教室 2校区の幼稚園で年2回開催

命塾、健康介護の広場 毎月1回

「地域住民にわかりやすいテキストと研修で障がい者理解を深める」

実施内容

助成額] 100万円

平成29年 7月26日 テキスト検討会(神戸)・・・住民向けのテキスト案を検討

平成29年 8月 3日 東日本大震災被災地(釜石・宮城での聞き取り調査)・・・被災後の避難所の様子を現地の人から聴き取る。

平成29年10月27日 テキスト検討会(神戸)・・・物語を検討

平成29年11月27日 テキスト検討会(西明石サポーターリングファミリー)・・・日常生活についての記入ができるか住民40人に確認

平成29年11月28日 テキスト検討会(神戸)・・・住民に記入していただいた資料を基に案を作成。

平成29年12月22日 テキスト検討会(西明石サポーターリングファミリー)・・・認知症の事例で住民研修を行う。

平成29年12月23日 テキスト検討会(神戸)・・・住民への研修結果をもとに編集をおこなう。

平成30年 2月26日 テキスト検討会(西明石サポーターリングファミリー)・・・マンガのラフ図で住民向けの研修を行う。

平成30年 3月10日 テキスト検討会(神戸)・・・テキスト最終編集検討を行う。

平成30年 3月26日 テキスト検討会(西明石サポーターリングファミリー)・・・出来上がりのテキストで住民に研修を行い、研修プランを検討する。

得られた効果

当初の計画は住民向けに障がいの理解を主旨としていたが、単に障がいの紹介をしてもこれまでの偏見解消や理解を深めることが難しいと考え、もしもの時の対応と一緒に考えられるように災害後の避難所のことを各物語に入れました。

これまで、避難することは要援護者として考えていたが、一緒に生活することを考えていなかったという声をたくさんいただき出来上がったテキストで各自治会等研修を行いたいとの申し出が多く寄せられています。なお、避難所のイラストを入れたことでイメージしやすく地域の中で、男性、女性、ボランティア、介護、医療等それぞれの特技を生かしてできること探しができやすくなったことは大きい。そして、住民向けのテキストではあるが、専門職と一緒にすることで専門職が住民を理解することも含め、さらに活用の方が広がったと感じている。

問題点

特になし

次の課題

地域での障がい者の理解を深めようと企画したが、専門職が地域になじめない、入り方がわからないという声を聞いた。住民と一緒に地域包括ケアシステムを構築するには住民と専門職、行政等が地域で課題を検討する機会をいかに増やしていくかという課題に取り組んでいく必要があると考える。



特定非営利活動法人PASネット

<http://www.pasnet.org/>

【所在地】 兵庫県西宮市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
高齢者

【日常の活動】

- 権利擁護支援センター事業(平成29年度委託事業、芦屋市および西宮市)
 - ・権利擁護専門相談
 - ・権利侵害への対応及び権利擁護に関する専門的支援
 - ・成年後見制度利用支援及び法人後見の受任・後見活動支援
 - ・権利擁護支援の普及・啓発
 - ・権利擁護支援推進のためのネットワーク活動
 - ・権利擁護支援者の養成・活用
- 権利擁護
 - ・法人後見・後見監督の受任(46件)
 - ・福祉サービス利用援助事業(17件)
- その他
 - ・書籍、DVD等出版物の販売
 - ・職員等による出前講座・講師派遣

「障害者・高齢者の意思決定支援の状況調査と普及・啓発事業」

実施内容

【助成額】 66万円

障害者・高齢者支援のための意思決定支援講座(全3回)

第1回 平成29年10月24日(火) 13:30~16:30

講義「高齢者・障がい者の意思決定支援」

講師：上田晴男(特定非営利活動法人PASネット)

第2回 平成29年11月17日(金) 13:30~16:30

講義「高齢者の意思決定支援」 講師：上田晴男

鼎談「高齢者支援の現場における意思決定支援の現状と課題」

鼎談者：萩原恵利子(南芦屋浜病院居宅介護支援事業所・ケアマネジャー)

谷本大作(介護老人保健施設エルステイ芦屋・相談員)、上田晴男

第3回 平成29年12月21日(木) 13:00~16:30

講義「障がいのある人の意思決定支援」 講師：上田晴男

鼎談「障害者支援の現場における意思決定支援の現状と課題」

鼎談者：角野太一(障害者相談支援センター「輪っふる」・センター長)

西井明子(地域生活支援センター「ジョイント」・サービス管理責任者) 上田晴男

☆意思決定支援に関するアンケート調査

実施時期 平成29年10月上旬に調査票を発送、同年11月末日までに回収

関係機関における障害者・高齢者の意思決定支援の実態を調査。調査結果は報告冊子を参照。

☆ヒアリング調査

実施日 平成29年12月5日(火)、7日(木)

関係機関における障害者・高齢者の意思決定支援の実態を調査。アンケート調査票の項目に沿って、事業所内の意思決定支援の状況について具体事例等を含めてヒアリングした。詳細は報告冊子を参照。

☆障害者・高齢者支援のための意思決定支援フォーラム

日時 平成30年1月17日(水) 13:30~16:30

①鼎談 曾根直樹(日本社会事業大学 福祉マネジメント研究科)

住田敦子(特定非営利活動法人尾張東部成年後見センター)、上田晴男

②報告 「意思決定支援に関するアンケート調査」 中間報告 上田晴男

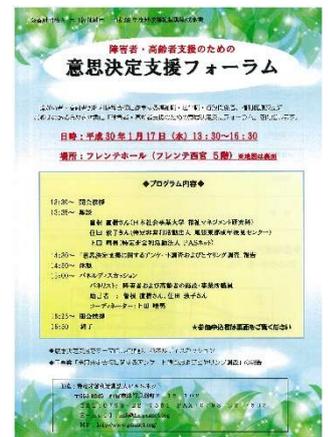
③パネルディスカッション パネリスト

パネリスト：萩原恵利子(南芦屋浜病院居宅介護支援事業所・ケアマネジャー)

伊藤俊治(指定障害者支援施設「一羊園」・サービス管理責任者)

角野太一(障害者相談支援センター「輪っふる」・センター長)

助言者：曾根直樹、住田敦子、コーディネータ：上田晴男



得られた効果

- ☆本事業の講座・フォーラム等を通して、障害者・高齢者の権利擁護支援従事者および各支援機関が意思決定支援の理念と理論を学び、また実践を知ることにより、その支援の重要性や必要性を支援関係者が共有することとなり、今後地域の権利擁護支援システムの支援機能が強化される効果が期待できる。
- ☆アンケート調査およびヒアリング調査を通して、各支援機関が意思決定支援の面から普段の支援全般を振り返ることにより、これまでの支援を整理し今後の支援に活かすことが期待される。

問題点

- ☆アンケート調査の回収率が 39.6%であり、データの母数(106)が少なかった。
- ☆フォーラムの参加人数が目標(150名程度)より少なかった。

次の課題

本事業のアンケート調査およびヒアリング調査、またフォーラム(アンケート回答含む)などを通して、「意思決定支援」の考え方に基づく支援は不十分な状況であり、また障害者支援における意思決定支援ガイドラインについても十分に周知されていないことが浮き彫りとなった。現在、認知症高齢者の支援における意思決定支援ガイドラインの策定が進められている。今後、これらガイドラインの策定を契機として、障害者・高齢者の権利擁護支援従事者または関係機関に対して、意思決定支援の理論と実践について普及・啓発を行っていくことが重要となる。

特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・兵庫

<http://www.son-hyogo.jp/>

【所在地】 兵庫県芦屋市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

兵庫県下 11 市 (尼崎、伊丹、西宮、芦屋、宝塚、神戸、北神戸、三田、明石、三木、東播磨、姫路) において、15 種目の競技 (水泳、陸上、卓球、ボウリング、テニス、バレーボール、サッカー、馬術、自転車、体操、フィギュアスケート、スピードスケート、スキー、フロアホッケー、スノーシューイング) を各週等で開催し、約 2 時間程度知的障害のある人たち (アスリート) 440 名余りが練習。指導にあたるのはコーチ、ボランティアであり、すべて無償で活動している。

「2017 年第 2 回近畿ブロック大会」

実施内容

【助成額】 50 万円

当近畿ブロック大会は、4 年に 1 度開催されるが、今回は第 2 回目で、近畿 2 府 4 県と徳島県、岡山県の知的障害のあるアスリート 549 名が 9 種目の競技会に参加して開催された。

9 月 23 日 9 時 30 分より、尼崎記念公園総合体育館にて開会式が行われ、約 30 名の来賓をお迎えし行われた。啓明学院高等学校チアリーディング部により、アトラクションとして華を添えて下さいました。その後、水泳・ボウリング参加者は各競技場へ移動し、午後より水泳は 111 名、ボウリング 105 名が参加し競技会が実施されました。その他の競技は尼崎記念公園内の各会場にて午前 10 時より実施され、各競技場にて表彰式、閉会式を執り行い、午後 4 時 30 分に終了しました。競技参加者はバレーボール 22 名、卓球 54 名、バスケットボール 110 名、バドミントン 21 名、陸上 65 名、テニス 25 名、サッカー 36 名。

ボウリングの体験プログラムを実施し、スペシャルオリンピックスの活動をしていない知的障害者を対象に、ボウリング競技の体験を通してスペシャルオリンピックスの活動参加を呼びかけ、5 名の参加があった。

大会運営は、スペシャルオリンピックス日本・兵庫が主管として進められ、公式審判員以外は、その他の運営一切、日頃のボランティアと学校・企業等からのボランティアにより行われた。運営費用については、各団体よりの助成金・協賛金・広告費又 8 府県のスペシャルオリンピックス日本の地区が負担金を拠出し実施いたしました。

得られた効果

近畿 2 府 4 県のアスリート 549 名が集い、9 種目の競技を競い合いました。4 年に 1 度の本大会は、ボランティアの皆さんが中心となって運営されましたが、各種目のスポーツ協会の御協力も得られ、それぞれの競技は、すべて順調に進行することが出来、スペシャルオリンピックスの啓発活動として多くの方に認知いただけました。大会全体としても、熱気にあふれた楽しい雰囲気や安全対策、医療対策などにも万全を期しましたので、大きな事故はなく、無事終了することができました。遠方からも参加したアスリートたちにとって、楽しい有意義な 1 日を経験することができたと思われま

す。開会式には、多数の来賓にお越しいただき、スペシャルオリンピックスの活動に直接触れていただく良き機会となりました。

スペシャルオリンピックス日本・兵庫が一丸となり実施し、関係者が連携し、大きな大会を経験できさらに連帯感が強まりました。

問題点

1 日の開催で 9 種目の競技を実施したが、水泳、ボウリングの会場は別会場であった為、バス移動で開催時間が遅れ、又バス代も多く拠出した。

次の課題

9種目の競技を同日に開催する大会の運営を、ボランティアの集まりで行うということは、無謀と思われる計画でした。549名のアスリートたち、競技運営と応援の人を含めると2000人近い人が集まる大会、それを大過なく終えることができたが、タイトなスケジュールであったので、もう少し余裕を持たせた大会にするべきでした。スタッフは全員ボランティアで、準備の時間が短く、開催間際は特に作業に追われ大変であったので、もう少し早く準備をはじめ、又参加者の申込締切日をもっと早くすべきでした。



たじまびっくりばこ実行委員会

【所在地】 兵庫県豊岡市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- ☆但馬地域の就労支援事業所が実行委員会を組織し、担当者が事業所の業務としてイベント開催までに約5回の会議を行い、終了後には反省会を行っています。
- ☆また、今年度は地域でのイベントへの出展や市役所内での販売を実施します。
- ☆実行委員会構成事業所
豊岡市:17事業所 養父市:1事業所 朝来市:2事業所 美方郡:3事業所
- ☆各就労支援事業所では、日々の下請け作業や製作した授産製品の売り上げから必要経費を差し引いた金額を、工賃として携わった利用者へ支給する等の活動を行っています。

「たじまびっくりばこ(授産製品展示即売会)の開催」

実施内容

【助成額】 14万円

たじまびっくりばこテーマ:「手をつなぎ生き貫く力を育もう」

4月～12月:授産製品展示販売(於:豊岡市役所)

☆豊岡市役所内にて授産製品の販売を実施

(延べ121回実施、参加事業所:9事業所、参加者数:121名、職員121名)

☆180cm巾の横断幕を購入し、各事業所交替で授産製品の展示・販売を行い、市職員や来庁者へのアピールを実施する。

- 4月実施回数:18回、参加事業所:7事業所、参加者数:利用者18名、職員18名
- 5月実施回数:12回、参加事業所:7事業所、参加者数:利用者12名、職員12名
- 6月実施回数:13回、参加事業所:6事業所、参加者数:利用者13名、職員32名
- 7月実施回数:13回、参加事業所:7事業所、参加者数:利用者13名、職員13名
- 8月実施回数:13回、参加事業所:6事業所、参加者数:利用者13名、職員13名
- 9月実施回数:12回、参加事業所:6事業所、参加者数:利用者12名、職員13名
- 10月実施回数:13回、参加事業所:7事業所、参加者数:利用者13名、職員13名
- 11月実施回数:14回、参加事業所:8事業所、参加者数:利用者14名、職員14名
- 12月実施回数:13回、参加事業所:7事業所、参加者数:利用者13名、職員13名

5月14日:「ひばこホール文化の祭典」にて展示販売(於:ひばこホール周辺)

☆豊岡市出石長のひばこホールにて授産製品の展示販売を実施(参加事業所:8事業所)

☆授産製品に加え、事業所毎に特色のある飲食ブースを設置し、来場者が1日イベントに参加できるよう実施する。

8月5日:「陸上自衛隊第3師団音楽フェスタ」にて展示販売(於:豊岡市市民会館周辺)

☆豊岡市立野町の豊岡市民会館周辺にて授産製品等の展示販売を実施(参加事業所:6事業所)

☆37℃の炎天下の中、自衛隊等の機器展示ブースの一角で実施し、授産製品に加えアイスクリーム・かき氷等の販売も行い、来場者へのPRを行う。

11月11日～12日：「但馬丸ごと感動市」健康福祉まつりの一角にて第4回たじまびっくりばこを開催
(於：全但バス但馬ドーム)

☆豊岡市日高町の全但バス但馬ドームにて毎年開催されている「但馬丸ごと感動市」健康福祉まつりの一角にて実施（参加事業所：11事業所）

☆前日よりブース内のレイアウトを行い、製品ごとの展示により事業所の枠をこえたブースの配置を行う。

☆当日は、90cmの風船10個にヘリウムガスを充填し、7.2mの横断幕を5m以上浮かせて来場者へイベント開催のアピールを行う。

☆各事業所より製品を提供していただき、チラシのくじ引き券持参者と購入者へのくじ引きを実施。

☆来場のお子様向けに風船を配布（50個/1日）し来場を促す。

☆ブース内の役割を事業所ごとに担当することで、利用者もレジ、くじ引き、風船配布等の役割を担い社会参加につながる。

得られた効果

但馬圏域の23の障害者就労支援で構成し、各事業所で製作した授産製品をより多くの地域の方へ知っていただき、販売を促進することで利用される利用者の工賃向上を目指すことに加え、各イベントへ参加する障害者が販売だけでなく、ブース設営やレジ対応、風船の作成や配布、くじ引き等それぞれ担当を持ち、スタッフに見守られながら役割を担い社会参加を果たすことができたと感じています。

また、各事業所間の職員・利用者の交流が図られるとともに、利用者・職員が他の事業所の授産製品を直接手にすることで刺激を受け、新たな製品づくりのきっかけになったと感じました。

問題点

参加事業所が23事業所ありますが、ひぼこ文化の祭典は8事業所、陸上自衛隊第3師団音楽フェスタは6事業所、第4回たじまびっくりばこでは11事業所の参加にとどまってしまいました。その原因として、開催日程が事業所の他のイベントと重なってしまったことや、事業所での生産規模により展示・販売するものが揃わなかったり、事業所が遠方であったり、休日での実施によりスタッフが配置できない等があげられ、より多くの事業所が参加できるように今後の開催時期・開催方法の検討が必要だと思われます。

次の課題

各事業所からのイベント参加への経費負担については基本的に授産製品の売り上げから負担しており、利用者へ支払われる工賃に大きく左右されてしまう状況です。そのため大掛かりなイベントを実施していくためには助成金に頼らざる得ない現状を解消するため、今後地域での支援者や賛助会費等を募っていきたい。



兵庫県喉摘障害者福祉協会 神鈴会

【所在地】 兵庫県高砂市

【対象者】 喉摘言語障害者

【日常の活動】

気管孔呼吸日常生活管理指導、喉摘障害者相談、発声訓練指導者養成、代用音声啓発(声の集い)、喉摘障害者福祉向上研修会(年3回)、機関誌の発行(年1回)

「喉摘者が社会参加を目指す『声の集い』」

実施内容

【助成額】 20万円

第1回実行委員会 8月10日

発表者の依頼:食道発声5名、シャント発声2名、笛式人工喉頭2名、電動式人工喉頭7名
全員への案内状発送:382名、審査員依頼:15名、医療従事者案内:25名、県・市町:57か所

第2回実行委員会 9月14日

発表者・参加者、来賓、審査委員の確定状況、大会当日の役割分担、参加証・記念品注文、賞状、横断幕、看板等手配

「声の集い」本番 10月28日13時～15時30分

開会 会長挨拶 来賓挨拶 審査員紹介

発声発表 食道発声:竹内裕博、廣瀬瑛三、東馬場博司

シャント発声:岡本修、廣瀬政治

電動式人工喉頭:池内勝、坂本勲、炭谷丈夫、横田清、広岡松次郎、黒田廣一

笛式人工喉頭:藤原信康、毛利利美

審査批評 丹生健一教授(神戸大学大学院頭頸部外科耳鼻咽喉頭科学科)

閉会

参加者 78名

喉摘者45名、その家族12名、来賓4名、審査員9名、病院関係者4名(看護師、言語聴覚士)、関係業者4名

得られた効果

13名発表された中で初めて出場のされた肩が6名おられた。出場を目指して練習した成果が表れたと満足され、将来は発声指導員を目指し、会やこれから手術を受けられる方の役に立ちたいとのボランティア活動の意欲を表明された。・現在でも吃音症例の受け入れを実施していない医療機関が多いという認識が一般的であるが、今回のような「後押し」があれば対応可能となる場合もあること発見できた。

問題点

喉摘手術を行う病院の先生方に審査員をお願いしたが、学会への参加と重なり、審査をお願いできなかった先生もおられた。

次の課題

発表される方が年々減ってきている。入会される方が以前は 30 名/年程度おられたが、去年は 12 名であり、会員数の減がみられることと、入会者の年齢が毎年高齢化している。28 年度で入会者の平均年齢が 75 歳であった（平成 25 年は 73 歳）。今までは代用音声の種類に焦点を合わせていたが、下咽頭癌の手術を受けられる方が増え、入会者の高齢化が進むと電動式人工咽頭発声の主となるので、電動式人工咽頭の特徴を加味した「声の集い」を考える必要がある（年齢別、初級・中級・上級というようにクラス別、スピーチに限らず歌を取り入れるとか）。

開催回数が 40 回を迎えたが、いずれも神戸が開催地であった。発声教室をひらいている姫路、明石、西宮でも、時には開催し、地域の盛り上げりを高めていく方向を考える。



兵庫県特別支援学校（知的）サッカー連盟

【所在地】 兵庫県加古郡

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

兵庫県特別支援学校(知的)サッカー連盟活動計画

(1) サッカー大会

① 連盟主催による大会の開催

- ・年 6 回のサッカー大会の主催

② 他団体主催の事業への参加

- ・兵庫県のじぎく障害者スポーツ大会
- ・U18 関西大会(11人制) 於三木防災への参加
- ・U18 関西大会(8人制) 於大阪体育大への参加

(2) 兵庫県下、各地でのサッカー教室の開催

- ・サッカースクール 未定

(3) 兵庫選抜チームの強化

- ・第 17 回全国障害者スポーツ大会(岩手)近畿予選会出場(H29年5月27日)京都
- ・兵庫選抜チームによる練習会の開催(月2~3回程度)
- ・ブロック練習の開催(西ブロック、東ブロック)

(4) 障がい者サッカーの普及

「ハンディキャップサッカーフェスティバル・ひょうご大会」

実施内容

【助成額】 52万円

1. 主催 兵庫県特別支援学校（知的）サッカー連盟 共催 共に歩む会
2. 後援 兵庫県サッカー協会 兵庫県特別支援学校校長会（アイウエオ順）
3. 目的 兵庫県・神戸市の知的障害のある人達のサッカーの裾野を広げるとともに交流・技術の向上を図る。
事務局：兵庫県特別支援学校（知的）サッカー連盟理事長 市位辰三
大会幹事校 兵庫県立芦屋特別支援学校サッカー部、兵庫県立高等特別支援学校サッカー部
4. 開催日時 平成 29 年 11 月 19 日（日）雨天実施
大会日程 開会式 9：20 試合 9：50 閉会式 16：00 予定
5. 会場 しあわせの村 球技場・運動広場
6. 大会参加費 1 チーム 3,000 円 * 同団体 2 チーム以上出場の場合、2 チーム目から 1,500 円
7. 競技規則
 - ①（財）日本サッカー協会競技規則（2017）に準ずる。
 - ②大会形式（試合時間等は、参加校等の関係により変更する場合があります）
 - ・A リーグ（0-18 8 人制の部：ハーフコート）
 - ・B リーグ（現役生チーム、現役生・卒業生合同チーム 8 人制：ハーフコート）
 - ・S リーグ（8 人制の部：ハーフコート）
 - ・SS リーグ（8 人制の部：ハーフコート）



得られた効果

東京オリンピック、パラリンピックに向けて、障害者スポーツに関心が向き始めている。

その興味関心を確固たるものにするために、サッカーを通して、県内の知的障がい者が交流すると同時に、健常者の方にも、障害者サッカーに関心を持っていただき、障害者同士、障害者と健常者の交流を進める場になってきている。知的障がい者のスポーツ活動は、単に機能向上や健康増進だけでなく、生活の質の向上や社会自立に寄与し、自己実現へ通ずる。サッカーを愛好する県下の学校及び施設などの団体が集まり、交流をすることで、目的が達成できてきている。また、障害福祉の理念であるノーマライゼーションにつながる。顧問に限らずみんなで支え合って今後も特別支援学校(知的)サッカー連盟の活動を継続していきたいと考えている。

問題点

特になし

次の課題

20年前までは、兵庫県では知的障害者のサッカー大会はなかった。毎日練習してもその成果を発表する場がない。これでは生徒達のやる気をそいでしまうのではないかと考えて、この大会を創設した。サッカー連盟という組織をつくり、年々、大会のレベルがアップして、今まではサッカーの技術や障害の程度に応じてカテゴリーを分け、重度の生徒や初心者も試合に参加できるまでになった。特別支援学校の生徒たちや社会人団体の選手の真剣なプレーを見ると、こうした大会は何としても続けていきたいと痛感する。

そして、毎年、兵庫県下の各特別支援学校高等部を卒業する生徒は各校 40 数名から 60 名近くいる。そのうち、サッカー一部員も卒業生となる。かつて「先生、卒業してもサッカーしにきていいか？」と尋ねる生徒がいた。「あーええでー、学校に來いよー」と答えた。卒業と同時に彼らはばらばらになる。特に事業所に働きに行く生徒はつながりがなくなってしまう。そこで、普段は仕事だが、休日に学校にやっけてきて、練習して、喜んでくれるのは、指導者としてはうれしい限りだ。学校に来て、サッカーを思い切り楽しんでくれれば、それはそれで彼らの余暇活動になる。卒業生のサッカーの継続も課題としてあげておきたい。



特定非営利活動法人きぼうの会 きぼうの木

<http://kibounokai.com/>

【所在地】 和歌山県西牟婁郡

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

多機能型(就労継続支援B型事業所・生活介護事業所)

「一次救命基礎知識から応用編、障がい者緊急時対応研修」

実施内容

【助成額】 31万円

BLSヘルスケアプロバイダーコース(BLS healthcare provider course)

成人および小児・乳児の心肺停止に対する初期対応を身につけていただくための一日コースです。AED(自動体外式除細動器)を用いた心肺蘇生法(CPR)や窒息の解除方なども含まれています。

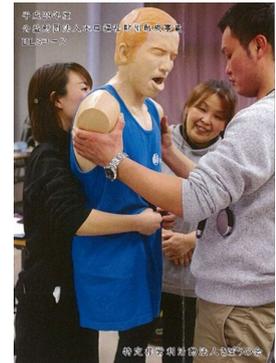
1. 特徴

「Practive while Watching」

AHAが、その40年以上にわたる心肺蘇生法教育の研究と経験から開発した方法です。DVDで各手技を見ながら、マネキンを用いて下記内容に関する練習を行います。これを手技ごとにステップ・バイ・ステップで行いますので、確実に手技を習得できる優れた方法です。

2. 内容

- ・成人の一人法
- ・二人法 CPR
- ・小児の一人法 CPR
- ・AEDの使用方法和二人法 CPR
- ・乳児の一人法
- ・二人法 CPR
- ・成人・乳児の窒息



得られた効果

1. 他事業所も含んでの受講になり、関係機関との交流が深まりました。
2. 地域のメディカルスタッフとの交流も深まり、緊急時の対応に以前より連携体制が整いました。
3. 地域の消防署・病院の方々に障がい者福祉事業についても、知ってもらうことが出来深く理解をいただきました。

問題点

当初の予定通りのコース開催を行いたかったのですが、循環器学会側も新規ガイドラインの詳細等の情報は不明な状態だったため、変更などが直近になった。

次の課題

BLSについては、取得出来たから大丈夫というものでもありません。一定の良質の蘇生術を保つためには、定期的な講習開催・実技指導チェックが必要になります。

今後の課題と致しましては、「良質の蘇生術」をキープするために定期的に受講を計画し、訓練会などの開催も必要です。



テキスト訳グループ「あいフレンド」

【所在地】 福岡県福岡市

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

視覚障がい者のために文字や図形をテキスト化するために、会員がそれぞれ自宅で作業をする。
必要に応じて勉強会を開く。
月に1度例会を開く。

「テキスト訳ボランティアの地域拠点としての活動の充実と拡大」

実施内容

【助成額】 12万円

1. 会員募集のためのテキスト訳紹介

☆2017年6月24日「視覚障害者支援ボランティア紹介講座 テキスト訳を学ぼう」に講師として参加。
(主催は福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター)

テキスト訳の概要と、グループの設立経緯についての説明、パソコンを使った体験講習を行った。
受講者は24人。

☆2018年1月8日「暮らしを変える”め”の福祉機器展」(主催福岡市視覚障害者福祉協会他)のボランティア紹介コーナーに参加。パソコンを使っのデモンストレーションを行った。

2. 新人研修、グループ勉強会

2017年8月19日 テキスト訳ルールについて 10月21日 読み上げソフトの使用法
11月18日 テキスト訳のためのパソコンのスキル 12月16日 OCRソフトのインストールと使い方
2018年1月20日 読み上げソフトとオンラインストレージサービス“DropBox”の使い方
2月17日 テキスト訳実践練習、3月17日 テキスト訳実践練習

3. テキスト訳の実施

☆福岡市社会福祉協議会の視覚障害者部門機関紙「FORYou」と「ふれあい」の定期刊行
☆エフコープ「被爆者証言集」(エフコープより依頼) ・家電取扱説明書(個人依頼)
☆楽譜(個人依頼) ・映画「もうろうを生きる」プレス原稿(上映会主催者依頼)

得られた効果

残念ながら波及効果と言えるほどのものではありませんでした。

しかし、広報の結果、意図した以外のところからの問い合わせなどもあり、当初考えていた以上の活用があることに気付かされました。これからの可能性として以下に記します。

1. 視覚障害者を交えた音楽サークルから楽譜の依頼。文章以外の適用も可能。

2. 県教育委員会の人権問題広報の方が情報伝達のひとつとして活用したいと来訪。

3. 家電メーカーへの提案の可能性

家電製品の取扱い説明書を個人依頼されて、家電メーカーの障害者への配慮を調べてみた結果、テキストファイルを作成してウェブサイトにあげているところもありましたが、使いやすい編集ではなく、先々こういうところに提案していくことも考えたいと思いました。

4. 視覚障害支援学校との連携

今年度より、特別支援学校の先生と話す場を設け、連携できることを探っていきます。

問題点

☆新入会員が思ったように集まらなかった。

☆活動できる会員が少ないため、運営の仕事(備品購入、他助成金の申請、研修用資料、テキスト作りなど)に忙殺され、テキスト訳を多く手がけることができなかったこと。

次の課題

テキスト訳は視覚障害者を対象としても、点訳のように著作権法の例外としてはあつかわれません。データとして、受け渡しやコピーもしやすいため、流出してしまう可能性もあります。現在は個人的なつながりや公的な依頼が主ですが、広く依頼を受けるとことになると、ボランティアと利用者の両方にしっかりとした認識が必要になります。同時に視覚障害者の権利として教育のためのものなどは法の制限も必要と思われます。状況を見ながらより利用しやすい制度になるようにボランティアとして考えていかなければなりません。



筑後地区療育システム協議会

【所在地】 福岡県久留米市

【対象者】 筑後地区に住む障がい児、家族

【日常の活動】

筑後地区の療育における連携推進強化事業

療育に関する地域の情報をわかりやすくし、様々な施設が連携と持って協働するため、当会は平成10年に療育マップを作った。年月とともに改定の必要が出てきたため、平成18年改定版を作成した。以前のものは各施設のスタッフ向けであったが、改訂版は、当事者と家族を対象にしたもので希望者が多く、無料で配布している。今日、社会的背景、制度が変わり更なる新しい情報誌として作成したい。また、療育、育児支援に関する意識や目的を同じくし、地域全体として活動するために、療育に関する勉強会や講演会を行う予定である。

「筑後地区の療育における連携推進強化事業『療育マップ』改訂版作成」

実施内容

【助成額】 100万円

- 平成29年5月16日 前回の冊子作成にあたった主たるメンバーでコア会議を行う。必要メンバーに打診するようきめる。
- 6月19日 第一回編集委員会を開く。医療、行政、福祉、保護者（育成会）の10名が集合した。事務局より前回のマップ作成について説明があり、今後の方針を示される。
- 7月18日 各関係機関の組織・機能等の資料を持ち寄り検討した。加えて、調査項目を決め担当者を決めた。Q&Aの頁をつくるという事で各々の立場で実例にあったQについて次回持ち寄ることとした。
- 9月26日 原稿依頼の調査項目について確認の話し合い。施設紹介はフリーアンサーとした。
- 10月17日 計画の進捗状態の把握と依頼先の最終確認。前回マップより削除した方が良いものを決める。
- 11月27日 校正の整合性について話し合う。未着の原稿先について連絡する者を振り分ける。
- 2月 5日 表紙を飾る絵のサンプルをプロジェクターに映し出し協議する。
- 2月21日 会長の出席のうえ、Q&Aの文言一言一句を確認した。表紙、裏表紙の2点を決める。
- 3月15日 製本印刷に出す。
- 3月30日 療育ガイドちくご（旧療育マップ筑後）第3版発行記念「地域情報の活用と連携を考える会」を開催した。47名の参加者があった。

備考：編集会議は10回程度でしたが、会議をしては宿題を持ち帰り、次回で検討するという事でした。事務局は送られて来たデータを編集する日々でした。編集委員はインターネットのメーリングリストの機能を使って、情報の共有化を行い、編集の進捗度を把握出来ていた。修正、加筆などもこの機能を使って行ってきた為に会議回数が少なく出来た。

得られた効果

福岡県共同募金会久留米市支会の理事会において、冊子を手にされた久留米大学人間健康学部の浜崎教授から、大学の授業の中で「療育ガイドちくご」を教材として使いたいとの申し出があり、20冊お分けしました。次の世代を担う若い学生さん方がよき支援者になられることを願っています。

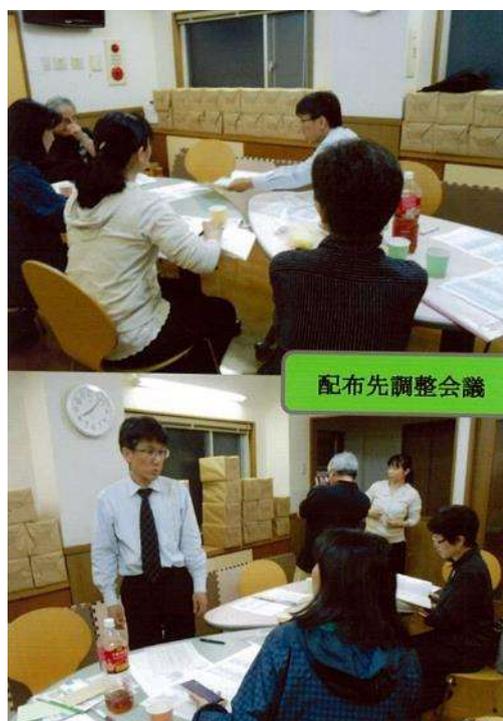
問題点

- ☆冊子への記載を拒否される事業所(病院)が数カ所あった。
- ☆原稿依頼が施設長(管理者)宛だったため、現場へ降りて来ない事もあり、再依頼させて貰った。校正、割り付けに時間をとられた。

次の課題

「情報」は俗に生ものであると言われることがある。紙面では追いつけない内容変更も多々ある。実際、いただいた原稿を編集して行く途中に於いて、名称が変わったものもあった。継続的に情報の修正したものを提供する事は、現状では困難である。

今回の冊子作成にあたり、行政・民間、医療・教育・福祉、支援者・保護者がつながった事を確信した。このつながりを今後も広げて行きたい。



株式会社ブルーバニーカンパニー

<http://www.jumpingart.com>

【所在地】 宮崎県宮崎市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

JUMPING ART PROJECT

一般企業への商品開発支援と経営コンサルティング

台湾への海外展開支援。交流促進事業

「障がい者のアーティストを企業とつなげ、工賃とする事業」

実施内容

【助成額】 22万円

2017年4月 障がいのあるアーティストと企業をつなげ、工賃とする事業“JUMPING ARTPROJECT”をスタートさせた。

1) 障がいのあるアーティストの発掘・養成事業（宮崎県予算で実地）

宮崎県では、2020年に県民芸術祭と、障がい者文化祭を同時開催することとしており、今年度から障がい者芸術に向けて啓蒙活動を行っている。弊社では、アートステーションどんこやと協働事業として、県からの委託で、障がい者芸術と工賃向上をつなげるワークショップ「アートユンボがやってきた」を今年度県内4箇所で行った。

2017年11月27日：宮崎市にて実施。宮崎市内の障がい者施設に通う利用者24名が参加。

2018年1月23日：日向市で実施。日向市近郊の障がい者施設に通う利用者16名が参加。

1月31日：企業向けセミナーを宮崎市にて実施。障がいのあるアーティストと企業がどのような形でコラボできるのか探った。25名参加。

2月16日：日南市で実施。日南市近郊の障がい者施設に通う利用者10名が参加。

参加者は思い思いの太陽を立体で作り、その場でプロのカメラマンが写真撮影を行った。写真は後日切手シートにして参加者へ送付し、自分の作品が印刷物になり、商品となることへの感覚を体感することができた。

2) 障がいのあるアーティストのイラストを利用し、クリエイターがデザインをして商品を製作。

JUMPING ARTのオリジナル商品制作を開始。また、秋からは企業とのコラボを積極的に行った。

〈目的〉

- ・アーティストの表現や作品性を広く認知してもらうため
- ・デザイナーやアーティストがデザインコラボに慣れるため

〈作品〉

- ・JUMPING ARTロゴ・メインビジュアル・リーフレットその他販売促進ツール

得られた効果

障がいのあるアーティストの作品をデザイン化するビジネスは宮崎では初の試みであり、県内でもメディアなどに紹介いただいた。

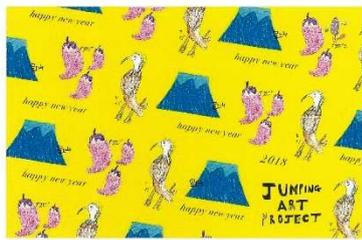
2018年4月にはJUMPING ART PROJECTは内閣府の進める文化プログラム“beyond2020”の認証を得た

問題点

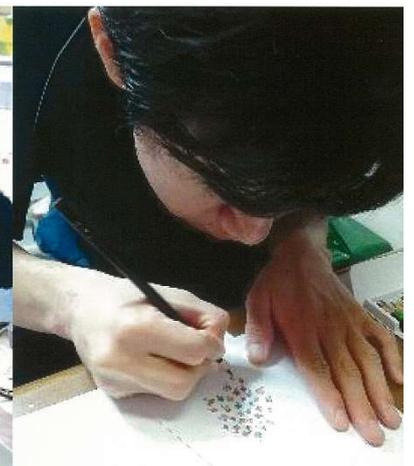
特になし

次の課題

弊社は行政の補助を受けない、一般的なデザイン会社である。障がいのあるアーティストと関わるスタンスについては、支援ではなくメンバーであると考えている。プロジェクトに関しても、誰が描いたという事は前面に出さず、アートやデザインとしてまずは作品性を好きになってほしいという思いが強い。今後もこのスタンスを明確にしてゆくことが、障がいのアーティストの活動の裾野を広げることにつながると思う。



オリジナルプロダクト 2018年賀状



特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議

<http://barifuri-okinawa.org/bfn/>

【所在地】 鹿児島県鹿児島市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

- ・沖縄県指定 放課後等デイサービス事業所「そら」、「そらステーション」の2か所
- ・沖縄県指定 就労継続支援B型事業所「sorato」
- ・沖縄県観光バリアフリー関連事業(平成28年度誰もが生き生き観光まちづくり業務)
→バリアフリー観光セミナーの実施等
- ・障がい者・高齢者観光案内所の運営「那覇空港」、「国際通り」の2か所
- ・沖縄BF観光冊子「そらくる沖縄」の発行 →沖縄県の観光バリアフリー情報を満載(年刊30,000部)
- ・沖縄県バリアフリーMAPの管理運営(平成28年度より委託業務へ変更)
→本島及び離島のバリアフリー調査
- ・美ら島ノンステップバス事業「そらぼーと号」の管理運営

『「逃げるバリアフリーマニュアル」の作成事業』

実施内容

【助成額】 100万円

逃げるバリアフリーマニュアル(A4、フルカラー、3000部)を作成し、沖縄県内の関連機関(280箇所)へ無料配布した。

【スケジュール】

1. 事前調査の実施(10-11月)・既存のマニュアル等の関係資料を収集した。
2. マニュアルの構成・文章の作成(12-2月)・マニュアルの構成を作り、文章を作成した。
3. 撮影会の実施・カフーフチャクコンド・ホテル(屋内および屋外)で当事者をモデルにした撮影会を実施した。
4. 送付・報告書の作成(3月)・マニュアルを印刷・作成した。(339箇所)

【マニュアルの内容】

1. 「逃げるバリアフリー」の必要性
 - ・逃げるバリアフリーの必要性を様々な観点から説明した。
2. 障がいの理解と基本的な支援方法
 - ・バリアフリーの観点から見た障がいに関する理解、各種統計、日常生活における困難さ、基本的な支援方法を説明した。
3. 災害時の障がい種別困難性の理解と応急支援時技術
 - ・障がい種別の困難性を避難時と避難所・自宅避難にわけて列記した。また、その際必要な応急支援技術も説明した。また、平時からの備えを説明し、当事者のお話を載せた。
4. 避難訓練・避難所訓練実施の例
 - ・要援護者が参加する訓練をより具体的にイメージできるよう避難訓練と避難所訓練の例を分かりやすく示した。

【マニュアル配布先】

1. 沖縄県行政機関担当課(61箇所)
2. 沖縄県社会福祉協議会(41箇所)
3. 沖縄県内の主要宿泊施設(150箇所)
→バリアフリールームがある宿泊施設やバリアフリーに積極的に取り組む宿泊施設
4. 沖縄県内の当事者・支援者関連団体(25箇所)
5. 全国のサポート団体(31箇所)
6. 研究機関等(31箇所)

得られた効果

【障がいのある方々への関心の醸成】

今回のマニュアルは、とりわけホテルを中心とした方々へ、災害時要援護者への対応の必要性や具体的な対応方法に関する普及・啓発が主な目的ではあるが、こうした災害時の対応を考えることで、平時から障がいのある方々への対応や支援にも大きな関心をもってもらえると考ええる。

【関連する事業の継続と効果的な普及啓発】

このマニュアルの助成を受けたことも評価され、県の社会福祉協議会から次年度の実証実験（避難訓練）を実施する助成を受けることができた。次年度は、社協の助成を活用して、ホテルパームロイヤル那覇で、夜間の実証実験（避難訓練）を行う予定である。次年度以降も継続して、「逃げバ！」に関する事業を継続することができ、より効果的に普及啓発を図れるものと考ええる。

【公助・共助・自助の普及】

このマニュアルは、主に共助にかかわるマニュアルである。尤も、大規模災害に対応するには、それぞれの部門の協力が不可欠で、共助のみで対応できるわけではない。けれども、公助や自助に関わるマニュアルは多数あるなかで、共助の具体的な内容にまで踏み込んだものはそれほど多くない。こうした災害対応をNPO 団体が先導することで、行政や社会福祉協議会等にも、災害時の対応に関する大きな関心と普及への取り組みを進めるきっかけとなると考える。

【災害弱者を中心とした防災へ】

沖縄県における災害対応は、しばしばいわゆる「健常者」を中心にその枠組みがつけられている。というのも、福祉避難所や個別支援計画といった言葉の認識ですら、かなり低い。本マニュアルによる普及啓発により、最も被害が大きくなると想定される災害弱者を中心とした防災・減災への取り組みの必要性を訴え続けることができると考える。

問題点

①撮影会について

撮影会において時間が足りずに、十分な休憩をはさむことができなかった。後日、当事者の方より他のボランティアを通して、非常にきつかった旨の申出があった。特に、飲料水などを準備していなかったことも指摘を受けた。こちらの当初の想定としては撮影時間は短時間であること、また、モデルとなる方は、常時撮影ではなく、写真の合間、合間に個別に休憩が取れるものと考えていた。こちらの意図とは、裏腹に、撮影中は常時待機しているような形となつてしまい申し訳ない旨を伝え謝罪した。

②印刷の遅延について

印刷会社に入稿後、データの不備が見つかり、再入稿することとなり、印刷予定に遅延が生じ、納品、発送が遅れる見通しとなった。

次の課題

【マニュアル作成に関わる課題:乳幼児・妊産婦・外国人等への対応】

今回のマニュアルの中で、十分に触れられなかった点として、乳幼児・妊産婦・外国人等への対応である。例えば、授乳室の確保や離乳食の確保、アレルギー対応、多言語対応などである。今後、さらなる精査を行っていきたい。外国人対応に関しては、多言語対応だけでなく、ピクトグラムや「やさしい日本語」の活用など、具体的な対応を検討したい。

【普及啓発事業に関わる課題:効果的な普及啓発】

現在、沖縄県における、ホテル等の観光施設において障がい者等が参加する避難訓練の実施は、当法人が行った2例のみである。ホテル等の観光施設で、障がい者等が参加する避難訓練を実施してほしいと言っても、そもそもやり方がわからないというのが現状である。こうした現状を鑑みる時、今回のマニュアルを作成したことで、障がい者や高齢者が参加する訓練の実施におけるハードルが下がったことは間違いないと考える。とはいえ、沖縄県は、台風以外の自然災害がほとんどなく、そもそも防災や減災に対する意識や関心が低いことに変わりはない。より高い意識をもってもらうためにも、今後は教材開発・研究等を通じて効果的な普及啓発を目指したい。

【逃げるバリアフリーの研究課題】

今回の事業内容の変更にも記載したが、時間がなく「研究」の側面にまで踏み込めなかった。とはいえ、踏み込むための視点のいくつかは定まっている。特に重要と思われる視点に関して指摘していきたい。大規模な災害がおこった地域あるいは頻発している地域では、防災意識も高く、防災や減災に関する様々な試みが多方面から重層的に展開されると思われる。しかしながら、災害がほとんど起こらないような地域では、まったく異なる対応が必要となるのではなからうか。防災や減災の文化を日常生活の中で育むこと、遠い地域で起こった出来事を自分たちに起こった出来事のように構想する力を養うことである。そのためには、被災者の講話や証言を集めることから始めなければならない。また、全国的にも災害対応が進む中で、なぜ要援護者の対応が遅れてしまうのも十分な検討の余地があると思われる。



④JINRIKI での移送（一人での移送、二人での移送）



⑤キャリダンでの移送



Team きらり OKINAWA

【所在地】 沖縄県うるま市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、家族・支援者

【日常の活動】

- 1) 「きらりの集い in 沖縄」開催へ向けた企画・運営
- 2) 精神障がい者が抱える課題へ対しての情報交換
- 3) ピアサポートの啓発活動
- 4) 関係機関等の連携

「きらりの集い in 沖縄 2018 開催プロジェクト」

実施内容

【助成額】 100万円

2018年1月19日（金）「首里城ライトアッププロジェクト」

首里城公園において「首里城ライトアッププロジェクト」と称し、県内精神科の入院患者の方々から「希望のメッセージ（あかり絵）」を集め、それぞれ灯籠に貼り、首里城公園内に灯籠を設置。設置作業に関しては県内外より参加した障がい当事者、関係者も共同で行う。設置後、点灯式ゲストとして自身も高次脳機能障害の当事者であるディジェリドゥ奏者の「GOMA氏」をお招きし、オープニングLIVEを実施。イベント参加者のみならず、一般の方々も数多くLIVEを鑑賞されるなどと、大盛況なイベントとなった。

2018年1月20日（土）きらりの集い in 沖縄 2018 1日目

10:00～

那覇市ぶんかテンプス館前広場にてオープニングを実施。オープニングイベントとして「沖縄ダルク」のエイサー、沖縄ソバの無料配布イベントを行う。

13:00～

①那覇市ぶんかテンプス館内5会場での分科会

②ぶんかテンプス館前広場での飲食ブース、ステージパフォーマンス

③桜坂劇場での映画上映、トークライブ

①に関しては全国の精神障がい当事者や支援者がそれぞれ持ち寄った企画を実施。「こころが軽くなるてつがくカフェ」や「当事者のためのわかちあいミーティング」等、当事者の方々日々の悩みや苦しみを共有する場や明日からの生活のヒントをみんなて出し合う企画など、どの分科会も席が埋まる好評ぶりであった。

②に関しては複数のグループによるステージLIVEやバルーン講座、また県内外の母体が飲食ブースなどを設置。また広場イベントとして木工用ボンド画家「富永ボンド氏」をお招きし、ライブペイントを実施。イベント参加者のみならず、国際通りを歩く観光客、一般市民の方々や多くの子どもたちも参加するなどの盛り上がりを見せていた。

③に関しては先日点灯式LIVEを行ったGOMA氏主演の「フラッシュバックメモリーズ3D」の上映並びにGOMA氏、坂本大会長、大鶴副大会長によるトークライブを行う。上記同様、イベント参加者のみならず一般の鑑賞者も数多く来られており、参加後には当日イベントについての賛同があり、大会パンフレットを持ち帰る等と、一般参加者からの当日イベントへの関心も多く寄せられていた。

2018年1月21日（日）きらりの集い in 沖縄 2018 2日目

10:00～

①分科会、②広場イベント、③桜坂劇場での映画上映を実施。

①分科会は5会場にて実施され、どの分科会にも多くの当事者の方の参加がみられた。

②の広場イベントに関しては前日からの「富永ボンド氏」による作品が完成となり、多くの参加者が作品と写真を撮る場面がみられている。

③桜坂では「サムライフ」を上映。原作者である「長岡秀貴氏」をお招きし、トークライブを実施。若者支援に関心のある方々に加え、前日同様一般の鑑賞者の方も多く見られており、多くの関心の声の寄せられていた。13時から桜坂劇場にてクロージングを実施。第一回大会から本大会までの歴代大会長から「きらりの集い」への想いが語られ、次回大会開催予定地である島根県に大会バトンの引継ぎを行う。クロージングにおいては多くの参加者から「きらりの集い」への想いや感想が聞かれるなど多くの自由な発言が飛び交う場となった。また、クロージング後もそれぞれ連絡先を交換したり、一緒に写真を撮るなどと、新たな「出逢い、つながり」を感じる場となっていた。15時をもって「きらりの集い in 沖縄 2018」全日程を終了。

得られた効果

事業の目的として、精神障がい当事者が出会い、つながることを主目的としており、実際に全国の当事者の方々がイベントや分科会を通して様々な交流を持つことが出来ており、主目的を達成出来たと感じている。それとは別に、会に参加した支援者の方々からも「病院では見れない一面がみれた」「他の学会とは違う、生き活きとしたパワーを感じた」等と、障がい当事者、また、日頃自身が関わっている当事者の方へのイメージチェンジや「障がい者」という目線から同じ「生活者」としての視点の変容があったように感じる。

また、那覇の中心地で首里城という有名な場所で開催したことにより、一般市民の方々の参加が多く、また「何の集まりなの？」と声をかけられることも数多く見られていた。このような場所での実施により、一般市民の方々が精神障がい当事者と触れ合う機会が生まれ、「精神障がい」に対するイメージが大きく変わったと感じる。このような機会が多くあることで、社会の「障がい」に対するイメージが変容し、「皆が住みやすい社会づくり」への一歩になると強く感じた。

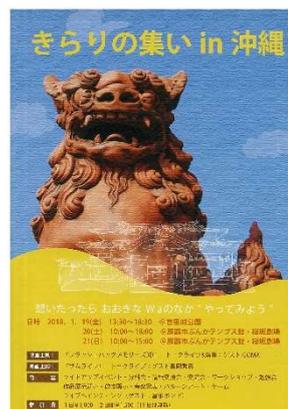
問題点

- ①大会初日の「首里城ライトアップイベント」に関して、屋外で実施を予定していたが悪天候により当日に灯火の配置を変更する等、雨天時のシミュレーションが不十分であったため、会の進行に手間がかかってしまった。
- ②沖縄県内の当事者の参加人数が屋外からの参加者と比べて割合が低かった。

次の課題

今回の事業を通して見えたこととして、沖縄県内における精神障がい当事者に上手く情報が行き届いていないことを強く感じた。多くの当事者の方々は精神科病院に入院していたり、デイケアに通所しており、社会との接点が少なかったり、外部とのつながりが少ないように感じる。当事者が多くの情報を得、自分の希望で自由に社会とつながるためには、当事者間のネットワークを築くだけでなく、その支援に携わる多くの支援者にも理解を促し、風通しの良い体制を築いていく必要があると感じた。

当会では、本大会をきっかけとし、今後も当事者の方や支援者の方など、立場に関わらず幅広いネットワークづくりに取り組んでいきたいと感じ、実際の取り組みも実施していく予定である。



東北関東大震災の被災者を支援する市民の集い（TKサポート）

<http://tksupport.jp/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 震災被災者

【日常の活動】

当会は弁護士、司法書士、税理士などの有資格者の集まりです。避難者の生活面での悩みなどにアドバイスや相談を行っています。心理面のケアには兵庫県臨床心理士会、子供達のケアとして兵庫県音楽療法士会と協力して対応しています。

「あしたの集い」

実施内容

【助成額】 35万円

震災により兵庫県内に避難してきた人たちへの交流会「あしたの集い」の開催

2017年10月28日 青少年科学館 参加者：大人5名、子供3名

2017年12月10日 クリスマス会 参加者：大人8名、子供8名

2018年 3月10日 神戸北野異人館めぐり 参加者：大人7名、子供3名

2018年 6月 9日 バーベキュー大会 参加者：大人7名、子供3名

2018年 9月17日 秋の芋掘り 参加者：大人6名、子供6名

得られた効果

長期間活動を継続して来たので、「あしたの集い」でお知り合いになった方同士が自助団体を立ち上げ独自で活動をされるようになりました。

毎回ボランティアの学生さんを受け入れています。マスコミに出ない避難者の悩みなどに直に触れることにより、新たな活動を模索されています。

イベントに参加することにより相談等のハードルが下がり、通常では聞きづらい知的障がい児に関する相談や不登校に関する相談も多く受けています。

問題点

特になし

次の課題

活動を始めて7年目になりますが初参加の方が概ね3~4割おられます。イベント告知に関しても今後、工夫してより多くの方に情報が届く様にしたいです。

イベント内では対処し難い個別相談事案もありますので、別途時間をもってプライバシーを確保した状況で相談を行えるように考えています。

特定非営利活動法人すまいるワーク

<https://smile-work.jimdo.com/>

【所在地】 熊本県菊池群

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業、放課後等デイサービス事業

「熊本震災で放課後等デイサービスの建物が罹災」

実施内容

【助成額】 300万円

「屋根瓦交換、外壁工事、台所・浴室タイル交換、天井パネル交換、床沈下修繕」

平成 28 年 4 月 16 日の大地震より、放課後等デイサービス「さくらんぼ」の建物等に大きな被害を受けた事に伴い
上記修繕工事等を行いました。

得られた 効果

今後同様の震災が発生した場合、地域の避難所としての機能を果たす事が期待できます。

問題点

特になし

次の課題

特になし

くまもと CS の会

<https://cs-kumamoto.jimdo.com/>

【所在地】 熊本県熊本市

【対象者】 化学物質過敏症発症者、家族

【日常の活動】

- ①交流会活動 ②ICT を活用した遠隔参加活動 ③熊本地震被災者支援活動
- ④自治体や地域社会への啓蒙活動

「熊本地震被災地の化学物質過敏症患者への継続的な支援活動」

実施内容

【助成額】50 万円

☆購入した物品

パソコン1台 資料作成、電話相談ほか、事務全般で使用

スキャナー1台 紙資料の電子化、配布資料やパンフレットなどの印刷で使用

プロジェクター1台 交流会や事務局会で使用

タブレット1台 交流会でのスカイプによる遠隔参加のホスト端末として、その他情報共有ツールとして使用。

☆電話相談、メール相談、情報支援活動

熊本地震後の改築や修繕、近隣の復旧工事増加に伴い新規発症者への情報支援、住環境の改善提案等を実施。状況により自宅訪問を行い、具体的な対策の提案等も行った。またその経緯や結果を交流会で話してもらい、地震からの教訓を共有した。

問い合わせ元は熊本県や九州を中心に、最近では九州以外の西日本からの問合せも増加している。代表電話番号は Skype で IP 電話番号を取得し、その番号をスタッフの端末で共有することで作業の分散とコスト削減を図った。

☆交流会活動

毎月1回の定期交流会を実施し、孤立化や QOL 低下、社会参画の機械喪失に陥りやすい発症者に対し、安心して呼吸ができ対話できる場所を創り、精神面でのケア、情報交換の場とした。熊本県内の発症者を中心に、福岡県、長崎県ほか県外からの参加者も増えた。

☆啓発活動

2017年11月18・19日に熊本市男女共同参画センター「はあもにい」で開催された「はあもにいフェスタ 2017」に啓発用ブースを初出展し、来場者の方に本症状を知ってもらうため、パネル展示や資料展示などを実施。当初、患者としてどこまでのことがやれるかという不安もあったが、会員の「少しでも多くの方にこの症状を知ってもらいたい」という思いから、それぞれの持てる力の範囲内で、体調など無理しないように計画・実施

2日間で90名の一般の方がブースに来場し、患者が当事者として説明。来場者の中には過敏症予備軍とも言える方々もあり「こんな症状がある事が知らなかった。今後は生活スタイルに気をつけたい」という声もあった。また会員が作った無農薬野菜の販売なども行いつつ、和気藹々とした雰囲気でも過敏症の啓発を行った。結果、発症後に社会参画を諦めていた会員の社会との関わりを感じられる場にもなり、また界全体での成功体験の共有にもつながった。

2018年5月18日に三重大学医学部看護学科の今井奈妙教授をお招きし、CS発症者と看護学についての懇談会を開催。以前よりCS発症者と看護の領域で関わってこられた今井教授のお話は、教授自身も元CS発症者ということもあり、多くの参加者の心に響いた。

その後会員や家族、熊本市保健所や行政担当者、市議会議員を交えてフリーディスカッションを実施。患者やその家族が直面するリアルな現状を広く知っていただく良い機会となった。

☆活動運営

会員向け広報「くまもと CS たより」の作成

2017/11/15 第0号発行

2018/05/12 第1号発行

2018/11/09 第2号発行

得られた効果

☆交流会に参加された発症者の方で、参加当初は日々の暮らしに絶望し受動的な姿勢が目立っていた方が、他の新規発症者に自らの体験談を語ることで、ご自身の状況を客観視することに繋がったようで、徐々に目が輝くようになり能動的な発言も増えた。患者同士のピアサポートに繋がった。

☆交流会を継続することで、少しずつではあるが地域社会での認知度も上がり、メディアなどの取材を受けることにつながった。

☆他の市民団体との繋がりが増え、共同でのプロジェクトを行うことになり、熊本市に患者会として意見書を提出。震災復興のシンボルともなる熊本城ホール建設の内装材選定や施工後の運用について意見書を提出し、その後も熊本市と協議を重ね、市も前向きに意見を取り入れてくれて現在建設中。

このことは公共施設のあり方について、また発症者と行政との関わりにおいて先駆的ということで週刊金曜日にも掲載された。

☆交流会を継続して定期開催している患者会は全国でまだ少なく(現在13団体)、各県の患者会代表者の「横の連携をより強く」という思いから、第27回日本臨床環境医学会学術集会で初の患者代表者会議を開催。遠方の代表者はオンラインで参加し、CS発症者の災害時対応などについて情報交換を行った。また、学会期間中、三重大学の企画で「化学物質過敏症 患者の声」企画を実施していただき、各県の患者会会員の「声」を専用紙で集めてブースに展示。学会に参加された専門家や研究者に対して、患者のリアルな「声」を届ける機会につながった。

☆電話相談や情報支援を行っていく中で、保健所や社会福祉協議会などから新規発症者について相談や紹介をされることも増え、新規発症者が患者会へたどりつくまでのルートが拡大された。また保健所等との連携も深まり、情報共有もやりやすくなった。

問題点

☆交流会や打合せをするにあたり、症状が故に発症者が安心して集える場所がほとんどなく、どこに行っても柔軟剤や建材の匂いなどに反応してしまい、会場選びの段階からかなり難航する。

☆新規発症者からの相談や問合せが増加する一方で、それらに全て対応できるだけのマンパワーが不足。

次の課題

☆発症者に関して

これまで化学物質過敏症は中高年に多いとされてきたが、近年では若年層も増えており、学校での体調不良を訴える子供達も急増している。電話相談でも、学校に行けなくなってしまい熊本県への移住を検討しているという内容のものもあった。学校現場や教育委員会に対してこの症状をより知っていただく必要があると感じた。

☆患者会運営に関して

今後確実に発症者が増えることが予想されるので、より組織的な患者会運営の必要性を感じた。

☆医療機関に関して

現在九州には化学物質過敏症を診断できる医療機関がなく、今も発症者は診断を受けるために関東や関西まで行っている状況で、中には症状が故に交通機関が利用できずに診断を諦めている発症者も少なくない。診断、診察ができる医療機関の必要性を強く感じた。

☆社会的な支援に関して

医療機関がないため化学物質過敏症として診断されないままの発症者も多く、その結果障害年金などの公的な支援が受けられない患者も多い。

☆熊本地震以降、自助の必要性を感じ食料を備えるなど、患者の防災意識も向上したが、それでも患者が災害時に避難できる避難所はないのが現状で、今後の自信や災害時には避難困難者として孤立する可能性が非常に高い。



平成 29 年度
選 考 委 員

選考委員長

立木 茂雄

同志社大学 社会学部社会学科 教授

高橋 守雄

ひょうごボランティアプラザ 所長

中田 智恵海

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター 代表

松本 博子

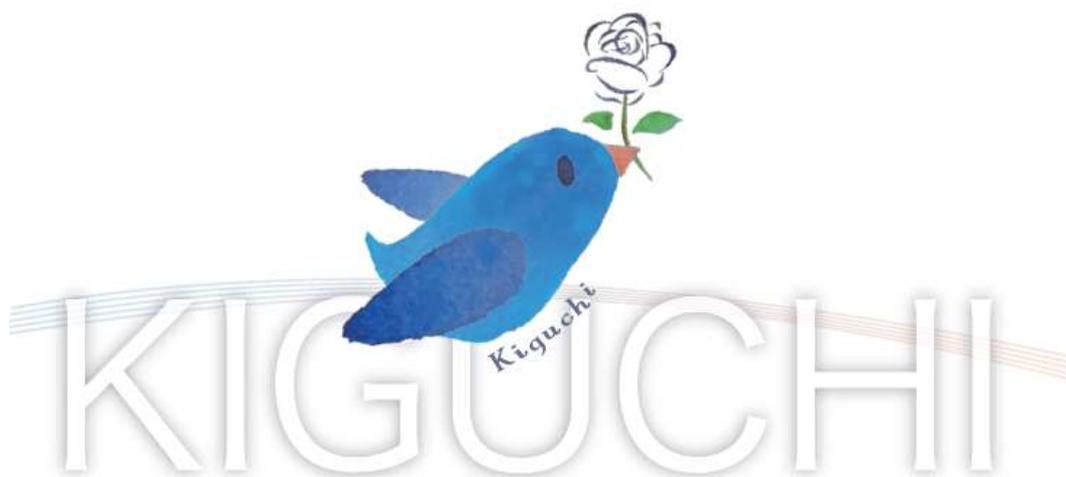
社会福祉法人兵庫県共同募金会 事務局長

山口 一史

公益財団法人コープともしびボランティア振興財団 理事長

横須賀 俊司

県立広島大学 保健福祉学部人間福祉学科 准教授



公益財団法人木口福祉財団

〒659-0051 兵庫県芦屋市呉川町14番10号

TEL 0797-21-5150

FAX 0797-35-4500

e-mail josei@kiguchi.or.jp URL <http://www.kiguchi.or.jp>

2019年12月発行